

富山経済同友会

会報

2023.5月
No.313



ごきげんよう職場訪問（東京証券取引所）（3月15日）

CONTENTS

- 【特集】2023年度定時総会 2
- 【提言発表】地域創生委員会 12
- 【提言発表】人財活躍委員会 13
- 【提言発表】教育問題委員会 14
- 第35回全国経済同友会セミナー 15
- 3月会員定例会 16
- 【講演録】3月会員定例会：岡島悦子氏 16
- 第4回委員長連絡会議 22
- 第10回教育問題委員会 22
- 第19回地域創生委員会 22
- スケッチオーデション 24
- 第12回ごきげんよう職場訪問 26
- 文化スポーツ・教育問題合同委員会 28
- 課外授業講師派遣 29
- 富山県市町村新任職員研修講師派遣 29
- リレーエッセイ^⑩（開章夫氏） 30
- 活動報告 31
- 会員の入退会 33
- 慶事のお知らせ 37
- トピックス（鹿児島同友会と交流） 38
- トピックス（地域創生委員会） 38
- 事務局からのお知らせ 39
- 今後の予定 39
- わが青春の1枚（森雅志氏） 40

2023年度定時総会

— 会員210名が出席し盛大に開催！ —

4月26日(水)、2023年度定時総会がANAクラウンプラザホテル富山で開催され、会場・オンライン視聴で約210名が出席した。

冒頭、麦野英順代表幹事が開会挨拶を行った。続いて、新田八朗富山県知事より来賓のご挨拶をいただき、新田知事は「昨年1年間の富山県の関係人口は推計、350万人ほどだった。関係人口1千万人達成に向け、ここにお集まりの皆様には1人10人を目標に世界・県外から富山にお誘いいただきたい」と呼びかけた。

牧田和樹代表幹事が議長を務め、①2022年度事業報告、②2022年度決算案、③2023年事業計画、④2023年度予算案、⑤役員の選任の5議案について審議が行われた。

2022年度事業報告では大橋聡司副代表幹事が概要報告を行い、各委員長が活動状況を説明した。また、板谷



聡会計監事が2022年度決算の監査報告を、高林幸裕副代表幹事が2023年度事業計画の説明をそれぞれ行い、いずれも原案どおり承認された。

2023年度事業計画では、「重点的に取り組むテーマ」、「知見を高めるテーマ」等については委員会内に小委員会を設置することとし、7委員会4小委員会体制で委員会活動を行うことが決定された。

役員の選任では、松田光司氏が常任幹事に選任された。そして、塩井保彦代表幹事の退任ならびに7名の新幹事の選任が承認された。

議案審議の終了後には、新任委員長の挨拶、



麦野代表幹事



新田知事



塩井特別顧問

事務局長と事務局員の交代に伴う挨拶があった。

総会終了後、横田美香富山県副知事、藤井裕久富山県市長会長、中谷仁富山県商工労働部長を来賓にお迎えして懇親会を開催した。



横田副知事



藤井市長会長

懇親会の冒頭には、西川悟平氏のピアノトークコンサートを行った。西川氏は2021年「東京2020パラリンピック閉会式」でグランドフィナーレを飾るなど世界



西川 悟平氏

中から注目を集めるピアニストで、参加者は西川氏の巧みなトークとピアノの音色に魅了された。

引き続き、牧田代表幹事が開会挨拶を行い、横田副知事から来賓の挨拶をいただいた。横田氏は「G7教育大臣会合があと16日で開催されるので、富山市と連携しながら一生懸命準備を進めている。富山の魅力を世界に発信できるよう頑張っていくので、皆様のご協力をお願いしたい」と述べた。続いて、本年1月以降入会された新会員の紹介があり、その後、藤井富山県市長会長が乾杯のご発声を行い、和やかに歓談した。



牧田代表幹事

最後に桶屋泰三副代表幹事が「7つの委員会の内5つの委員会で委員長が新しくなり、事務局の体制も大きく変わりますので、温かいご指導、ご鞭撻をお願いします」と閉会の挨拶を行い、盛会のうちに終了した。



桶屋副代表幹事

積極的な同友会活動で地域を盛り上げよう

—総会開会挨拶— 代表幹事 麦野英順

今年度の定時総会にはオンラインを含め、約210名と大変多くの会員にご参加いただきました。そして、新田知事には公務多忙の中ご参加いただき、感謝申し上げます。

2022年の我が国の景気は緩やかに回復し、内閣府が公表している暦年ベースの実質GDP成長率は1%でした。しかし、この成長率は191か国中168位と大変低い順位であり、バブル崩壊後の「失われた30年」から未だ脱却できない状況が続いています。(公社)経済同友会の櫻田代表幹事は「失われた30年」ではなく「失った30年」と変革しようとしなかったことに反省を込めて表現されていますが、我々も自らを振り返ってみる必要があります。

4月13日と14日の2日間、全国経済同友会セミナーが長崎で開催され、「経済人として安全保障にどう向き合うか」をテーマに議論が交わされました。

米中対立、新型コロナウイルス、国際紛争、異常気象などがグローバル経済に混乱を招き、エネルギー・食料不足による価格高騰が地域の生活まで影響を与えています。従来の「安全保障は空気の

ようなもの」と錯覚していた時代は過ぎ去り、経済人も自ら安全保障に向き合わなければいけません。従来以上にアンテナを高くし、会員同志情報連携を取り合っていきたいと考えております。

さて、昨年度はコロナに対する行動制限の緩和が進み、われわれ同友会も多くの事業を実行することができました。後ほど各委員長から報告をさせていただきます。

一昨年(2021年)の4月に当会は「SDGs宣言」を行い、それ以降、SDGsの活動に積極的に取り組んでおります。今年度は7つの委員会の内5つの委員会で委員長が交代し、新しい委員長のもとで引き続きSDGsの活動を積極的に行ってまいります。また、「重点的な活動」や「講演会や勉強会により知見を高めるテーマ」には委員会内に小委員会を設置して活動いたします。

そして、今年度から事務局長は出向者ではなく、独自に採用し事務局は5名から6名体制といたしました。会員の皆様には今年度も積極的に当会の活動に参加し、地域を盛り上げていただくことをお願いし、開会の挨拶とします。本日はよろしく申し上げます。

代表幹事退任挨拶

特別顧問 塩井保彦

富山経済同友会の活動のさまざまな場面において、会員諸兄にお支えいただいたことで、職責を務めることができたことを深く感謝を申し上げます。

今後は同友会活動の原点である委員会活動に可能な限り参加させていただきながら、同友会活動の推進と自己研鑽に努めていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

さらに交流を深めていきましょう

—懇親会・開会挨拶— 代表幹事 牧田和樹

本日はお忙しいところ横田副知事、藤井市長会長、中谷商工労働部長にお越しいただきありがとうございました。そして西川様、素敵なお話と演奏をありがとうございました。心が清々しくなるオープニングを迎えることができました。心より感謝申し上げます。

さて、新年度になりました。同友会活動の根幹となるのは委員会です。新たに委員長に選任された方々には一生懸命携わっていただき、多くの会員の皆様に積極的に委員会に参加していただきたいと存じます。

そして、もう一つの同友会の大切なイベント

は総会の懇親会と年末定例会の懇親会であると思っています。今ほど西川様のお話にありましたが、人と人の関わり合いがわれわれ人間にとって大切です。個人の資格で入っている同友会で交流を深める場が懇親会ですので、大いに交流をしていただきたいと思います。

今回で代表幹事を退任された塩井さん、お疲れ様でした。これからは大所高所から我々の活動を見守っていただきたいと思っております。また、事務局も変わりましたので、事務局の方々との交流も深めていただきたいと存じます。それではよろしく申し上げます。

活発だった委員会活動

副代表幹事 大橋 聡司

2022年度の活動の概要についてご説明します。

まず、委員会活動ですが、2022年度も活発に展開され、3つの委員会が提言を公表しました。



地域創生委員会は、「ポストコロナ／ウィズコロナの富山観光のあり方について～選ばれ続けるチャンスを活かす～」と題し、これからの富山の観光振興のあり方を提言しました。

人財活躍委員会は、「アントレプレナーシップ人財育成プログラムから見てきた『富山の未来を支える』人財づくりとは」と題し、産学官一体となってアントレプレナーシップを身に付ける学びの場への支援を強化することを提言しました。

教育問題委員会は、「教育現場が『各界の教育支援』をスムーズに受けられるようにするため、1カ所に相談すれば目的を達せられる環境を作る」ことを提言しました。

次に、2022年度の各委員会のSDGsの活動事例を紹介します。「持続可能な企業経営」をテーマに、企業経営委員会は、会員企業のSDGs、健康経営、脱炭素経営等についての事例発表会を開催したほか、SDGsの取組状況について、会員企業の意識調査を行いました。

「持続可能な人づくり」をテーマに、人財活躍委員会は、起業家支援事業（スケッチオーデション）、高度外国人材の活用に向けた留学生との交流事業、副業兼業人材の活用セミナーなどを実施しました。

また教育問題委員会は課外授業講師派遣に積

極的に取り組みました。

「持続可能な地域づくり」をテーマに地域創生委員会は視察・講演会の開催、県内フィールドワークによる地域の魅力再発見とガイドブック制作による発信力の強化に取り組みました。また、文化スポーツ委員会は、立山の自然や観光の歴史を学んだほか、パラスポーツ交流を通じて共生社会について理解を深めました。

また、「地域連携」活動として、教育問題委員会が富山県教育委員会と意見交換を行いました。

委員会活動は、年度当初は7委員会ではじめましたが、8月から2つの小委員会を設置して活動しました。

新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の緩和により、海外経済視察や全国立山大使の会を3年ぶりに開催することができました。

2020年度、2021年度はコロナ禍で県外視察ができませんでしたが、2022年度は各委員会が盛んに県外視察を行うなどしたため、委員会開催回数・出席者共に増加しています。委員会活動が活発に行われていることを評価したいと思います。

引き続き活発な委員会活動が行われることを期待しております。

以上、私からの説明とさせていただきます。

新たに委員長連絡会議を開催

企画委員長 高林 幸裕



企画委員会の活動について、ご報告させていただきます。

2022年度は、3回の委員会と4回の委員長連絡会議を開催しました。

企画委員会の年度を通じた検討テーマは「2023年度以降の委員会再編」でありました。

委員会活動は当会の根幹をなすものでありますが、近年、委員会数をスリム化してきたことに加え、コロナ禍も相俟って、「1委員会あたりの人数が多過ぎる」「取り組むべきテーマが多過ぎる」との課題が生じてまいりました。

「もっとじっくり議論したい」、「キャッチアップしたいものにも取り組みたい」との様々な会員ニーズを満たすとともに、事務局負担の抑制を図りながら、「さらなる連携も推進したい」との問題意識で検討致しました。

昨年4月の第1回委員会で「対応の方向性」を議論し、途中、「委員会再編案のたたき台」を作成し、11月の常任幹事会・委員長会議等での意見も踏まえ、修正案を纏め上げました。その結果が、後ほど説明される2023年度計画に反映されております。

また、私が幹事役を務め、委員長連絡会議を試行実施したところ、大変効果的であると実感しましたので、四半期ごとに合計4回開催しました。

当日16:30に忙しい委員長の皆さんに集合いただき、各委員会活動の進捗状況や課題を共有し、熱心に意見交換を行っていただきました。

これにより、さらに質の高い委員会活動や相互連携に繋がったのではないかと感じております。

以上で、企画委員会の活動報告を終わらせていただきます。

3年振りに海外経済視察

交流委員長 中沖 雄



交流委員会は2022年度に新設された委員会です。各地同友会との交流促進、海外経済視察の企画などを行っています。

10月に福井県でウエルビーイングをテーマとする経済同友会中央日本地区会議に参加しました。

11月には、鳥取県で第13回日本海沿岸地域経済同友会代表幹事サミットに参加しました。北前船・昆布ロードにかかわった地域で交流しようと当会が提唱し15年ほど前から始まりました。交流レセプションでは、本サミットの提唱者である中尾特別顧問がご挨拶されました。

当会の交流事業としましては、5月に当会OB・OG有志の会である、「全国立山大使の会」を3年ぶりに東京で開催しました。11月には、新会員歓迎オリエンテーションを開催しました。

海外経済視察は7月31日～8月7日に、オレゴン・サンフランシスコを視察しました。前半

は、県の「富山県・オレゴン州友好提携30周年記念訪問団」に同行しました。現地での交流や起業をテーマにした視察を行い、8月3日の午後からは、県の訪問団と離れ、当会単独で起業をテーマに視察をいたしました。

委員会は5回開催し、5月の第1回委員会では、2022年度の活動方針と活動計画、海外経済視察を議題としました。

9月の第2回委員会では、先ほどご説明した海外経済視察の期間中に当会訪問団から新型コロナウイルス感染者を出してしまったという反省から、視察時のコロナ対策ガイドラインを策定いたしました。策定してしばらくすると、富山県のコロナの行動制限がなくなりましたので、これを受けて、第3回委員会を開催し、ガイドラインの改訂を行いました。

12月に第4回、2月に第5回委員会を開催し、2022年度海外経済視察の振り返りと、2023年度海外経済視察の視察先について検討を行いました。

以上で、交流委員会の活動報告を終わらせていただきます。

持続可能な経営を目指して

企業経営委員長 伊勢 徹



活動3年目となる2022年度は、2021年度に引き続き、持続可能な経営を目指すための諸課題への対応や、あるべき経営者の姿に関して考えることをテーマに活動を行いました。

2021年度は座学により諸課題についての理解を深めましたが、2022年度は、より実践的な気付きを得るため、会員企業に取組事例を紹介いただくこととしました。8月の第8回委員会はSDGs、10月の第9回委員会は健康経営、12月の第10回委員会は脱炭素経営、2月の第12回委員会は事業承継をテーマに設定し、先進的な取組みを行っている会員企業に事例発表いただきました。

1月には会員定例会を主管し、(株)日本M&Aセンターの三宅社長から、M&Aを成長戦略として活用する方法についてご講演いただきました。

2月に開催した第11回拡大委員会では、日本銀行の吉濱金沢支店長から、最近の金融経済情勢についてご講演いただきました。

ごきげんよう職場訪問は3回実施し、7月には広島・山口を訪れ、マツダミュージアム、(株)日立製作所笠戸事業所、旭酒造(株)を見学しました。9月には県西部の(株)能作、日本総合サイクル(株)、BBS ジャパン(株)を見学しました。3月には東京を訪れ、東京証券取引所、(株)レノバ、NHK、amazon、日立ビルソリューション-ラボを見学しました。

経営道場は2回開催し、6月には(株)生活ネット研究所の羽根代表と金剛薬品(株)の米田会長に、2月には富美菊酒造(株)の羽根代表、(株)トンボ飲料の翠田社長にご発表いただき、活発な意見交換や多くの質疑がなされました。

景気定点観測アンケートは、7月と12月の2回実施し、新型コロナや原材料・エネルギー価格高騰による影響などについて調査しました。

企業経営委員会の活動報告は以上です。3年間ありがとうございました。

高度人材の確保・育成に向けて

人財活躍委員長 浅林 孝志



活動2年目となる2022年度は、2021年度に引き続き、前身の人財創出委員会で作成した提言の実践に向け、活動を行いました。

7月の第5回委員会では、(公社)経済同友会の宇佐見俊彦氏にワーケーションの現状や課題、日本政策投資銀行北陸支店の宮原史英子氏と高岡市未来政策部企画課の吉本恭子氏に外部人材の活用事例についてご講演いただきました。

8月には「外国人材の活用に関する調査」を実施し、外国人材の活用に関する実態や就労に関する意識について、会員企業と富山大学留学生に対し、アンケート調査を行いました。

9月には「副業・兼業人材の活用推進セミナー」を開催し、副業・兼業人材の活用ポイントを(株)みらいワークスの高橋寛氏に講演いただき、県内企業の副業・兼業人材の活用好事例を日の

出屋製菓産業(株)と三耐保温(株)の方に紹介いただきました。また、県の副業・兼業推進の取組を富山県商工労働部の山口祐輔氏にご講演いただきました。

1月には会員企業と富山大学留学生との交流会を3年ぶりに実施しました。

2月には第6回委員会として、提言案について意見交換の後、神戸大学大学院の吉田満梨氏に新しい事業を生み出す思考様式「エフェクチュエーション」についてご講演いただきました。

3月には会員定例会を主管し、(株)プロノバの岡島悦子氏に多様性を活かしたマネジメント手法についてご講演いただきました。

また、起業家支援事業「スケッチオーデション」では、約半年かけて、ビジネスプランの考え方をインプット、ブラッシュアップし、参加者を伴走支援しました。3月のビジネスプランコンテストで、全33組の出場者の中から優勝、準優勝、特別賞、メンター賞を決定し、「スケッチオーデション」から得た気づきをもとに提言を策定しました。人財活躍委員会の活動報告は以上となります。2年間、ありがとうございました。

提言の実践と新たな取組み

教育問題委員長 高瀬 幸忠



活動2年目となる2022年度は、前期委員会にて策定した提言の実践や課外授業講師派遣などの継続事業に取り組んだほか、教員参加の宿泊を伴う県外視察など新たな取組みを実施

しました。

SDGsの理念「誰ひとり取り残さない」実践のため、6月開催の第4回委員会では、特別支援教育の理解促進を図るための講演会を開催しました。3月には文化スポーツ委員会と合同で、第11回委員会として、車いすバスケットボールの宮島徹也選手を招き体験交流会を開催しました。

また、提言の実践として、富山県教育委員会との意見交換会を2回開催し、キャリア教育や教育におけるICTの活用をテーマに意見交換を行いました。

9月には教員5名に参加いただき2泊3日で

青森・関西を視察しました。おしごと体験広場キッズハローワーク、関西経済同友会、関西キャリア教育支援協議会、大阪府教育庁、大阪市教育委員会と面談し、キャリア教育の取組みの実情を学びました。

10月には会員定例会を主管し、(株)ニッセイ基礎研究所の天野氏に「データで読み解く『富山の人口問題』～なぜ企業経営者が鍵を握るのか～」と題しご講演いただきました。

課外授業講師派遣は、17校に31名の講師を派遣しました。制度創設以来の延べ数は、323校・436名と着実に派遣実績を積み重ねています。

そして、2年間の活動の総括として、提言「教育現場が『各界の教育支援』をスムーズに受けられるようにするため、1カ所に相談すれば目的を達せられる環境を作る」を策定しました。これにより、教育現場の負担が大きく軽減され、各界の教育支援の活用がより進み、子どもたちの健やかな成長につながるものと考えています。

教育問題委員会の活動報告は以上です。2年間ありがとうございました。

ポストコロナ／ウィズコロナの富山観光のあり方 地域創生委員長 山本 覚



活動2年目となる2022年度は、地域の魅力再発見と幅広い情報発信等を目的とした「とやま観光小委員会」を設置し、コロナ禍後を見据えた富山の観光振興をメインテーマとして

活動を行いました。

講演会としては、6月の第9回委員会で福井県観光連盟の坪田専務理事に「北陸新幹線敦賀延伸を見据えた福井の観光振興の取組」、9月の第11回委員会で沖縄市企画部長兼プロジェクト推進室長の山内様に「沖縄アリーナの整備とプロフィット化に向けた取組」、1月の第17回委員会で大分経済同友会の三浦調査部長に「大分県臼杵市のユネスコ食文化創造都市への登録の取組」について、また、主管した12月会員定例会で(株)鹿島アントラーズ・エフ・シーの小泉社長に「鹿島アントラーズが考える地域の将来像」と題し、それぞれご講演いただきました。

現地視察にも注力し、5月の第8回委員会で福岡地域戦略推進協議会や大分経済同友会など、11月の第14回委員会・1月の第16回委員会で福井県内の観光地やエネルギー施設、2月の第18回委員会で沖縄アリーナを視察。また、地域観光資源の調査として、4月の第7回委員会で立山黒部アルペンルート視察、7月・8月の第10回委員会で富山ワインツーリズム、12月の第15回委員会で富山マイクロ日本酒ツーリズムを開催しました。

さらに、8月・12月に開催したとやま観光小委員会での企画・検討に基づき、10月に第12回・第13回委員会として実施した1泊2日のフィールドワークを対象とした小冊子とウェブサイトを制作しました。

これらの活動を踏まえ、1月の第17回委員会にて意見交換を実施のうえ、3月に提言『ポストコロナ／ウィズコロナの富山観光のあり方について～選ばれ続けるチャンスを活かす～』を策定しました。

地域創生委員会の活動報告は以上となります。2年間ありがとうございました。

富山の文化やスポーツ選手への理解を深める 文化スポーツ委員長 島田 好美



2年目となる2022年度は、郷土の伝統文化や立山の自然・観光の歴史の理解、富山ゆかりのスポーツ選手の応援をテーマに、活動を行いました。また、アスリート支援小委員会を設置し、アスリートのセカンドキャリア支援等について検討しました。

5月の第5回委員会では、城端の織物など郷土の伝統工芸の理解を深め、三遊亭良楽師匠から、着物の所作や落語についてお話を伺いました。

6月の第6回委員会では、立山ガイドの佐伯知彦様をお迎えし、室堂を視察しました。

7月には会員定例会を主管し、NSGグループ会長/㈱アルビレックス新潟 取締役会長 池田弘様に、「スポーツを通じた地域活性化」についてご講演いただきました。

9月の第7回委員会では、黒部ダム、弥陀ヶ原などを視察しました。

11月の第8回委員会は、朝乃山後援会の青木理事長、富商相撲部の上田監督をお招きし、「相撲談議」を行いました。

1月の第9回委員会では、千秋楽の朝乃山の取組を観戦し、祝賀会に参加。翌日、歌舞伎を鑑賞しました。

3月の第10回委員会は、教育問題委員会と合同で東京パラリンピック銀メダリストの宮島徹也選手を招き、講演会と車いすバスケットボールを体験しました。

アスリート支援小委員会は、8月に第1回委員会を開催し、元 NEC グリーンロケッツ所属吉村様にセカンドキャリアについて体験談をお聞きしました。

11月に開催した第2回委員会では、市の担当者や公立中学校における部活動の地域移行について、意見交換を行いました。

「同友会の日」は、8月に富山 GRN サンダーバーズ、10月にカタレ富山、3月に富山グラウジーズを観戦しました。

以上、文化スポーツ委員会の活動報告を終わります。2年間ありがとうございました。

2023年度 事業計画

持続可能な社会実現に貢献していく

副代表幹事 高林 幸裕

2023年度の事業計画案についてご説明いたします。今年度も2021年度に打ち出した当会SDGs宣言に基づいて、持続可能な地域社会の実現に貢献する取組を積極的に推進してまいりたいと存じます。



具体的には①持続可能な企業経営は「企業経営委員会」、②持続可能な人づくりは「人財活躍委員会」と「教育問題委員会」、③持続可能な地域づくりは「地域創生委員会」と「文化スポーツ委員会」、④パートナーシップは「企画委員会」と「交流委員会」がそれぞれ担当いたします。パートナーシップ活動には、代表幹事以下、各役員、委員会も加わって「他経済団体、アカデミア、行政との連携」に積極的に取り組んでまいります。

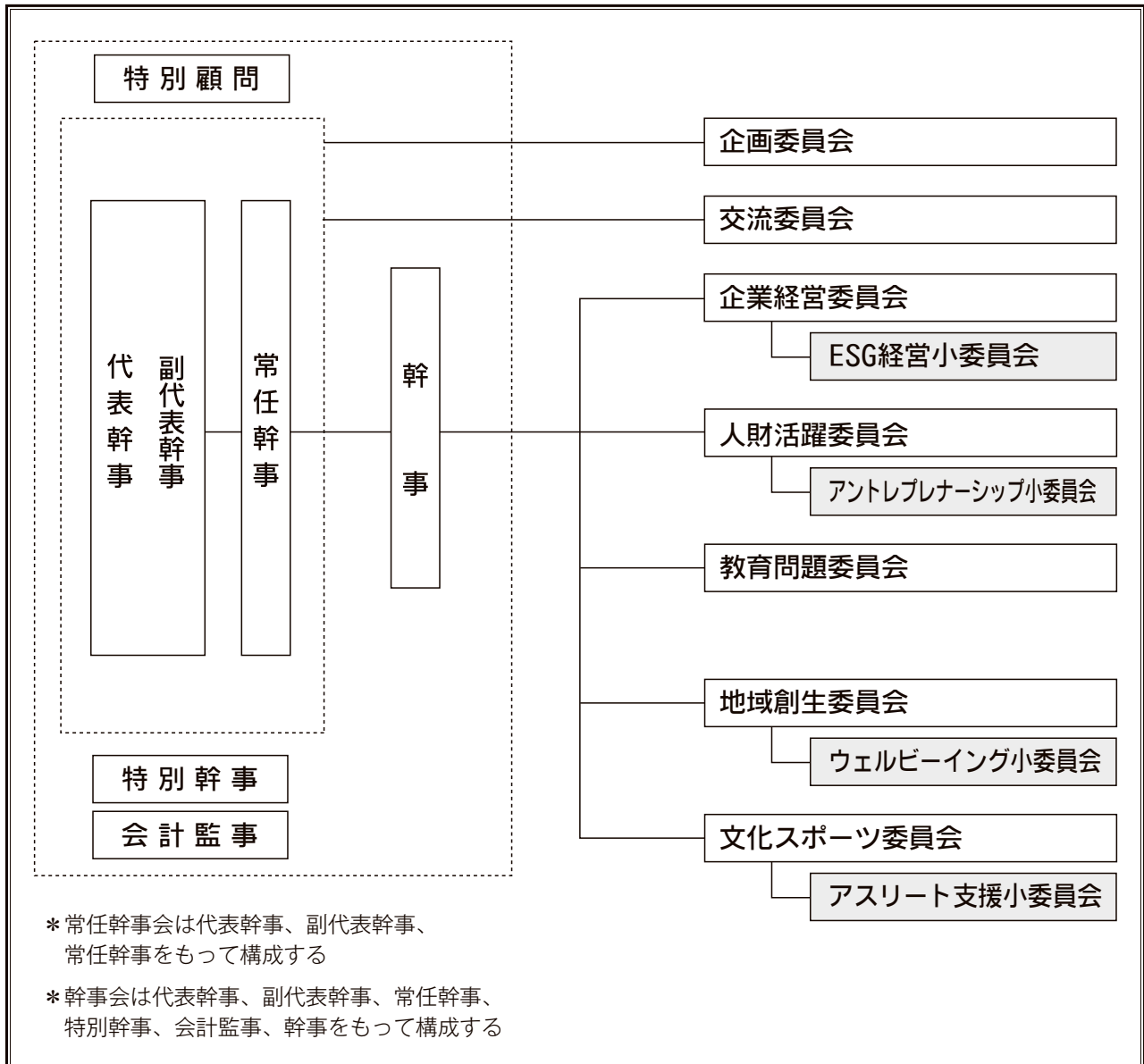
また、「重点的に取り組むテーマ」、「知見を高めるテーマ」など、会員の皆さんがそれぞれのニーズに応じて参加できる小委員会を委員会内に設置することといたします。今年度は4つの小委員会、具体的には①企業経営委員会には「ESG経営小委員会」、②人財活躍委員会には「アントレプレナーシップ小委員会」、③地域創生委員会には「ウェルビーイング小委員会」、④文化スポーツ委員会には「アスリート支援小委員会」をそれぞれ設置いたします。

また、委員会、小委員会毎に「担当役員」を配置し、予算執行および委員会運営について、委員長に助言することといたします。

いよいよアフターコロナが本格化いたします。経済・社会の変化を好機と捉え、「連携」・「創造」・「行動」をキーワードに積極的に取り組んでまいりたいと存じます。

以上、2023年度の事業計画についてご説明申し上げます。

組織図



【委員会・小委員会、委員長、担当役員】

委員会名	委員長	担当役員
企画委員会	高林 幸裕	—
交流委員会	中沖 雄	大橋 聡司
企業経営委員会	高木 悦郎	白倉 三喜
ESG経営小委員会	松田 光司	—
人財活躍委員会	森 弘吉	森田 弘美
アントレプレナーシップ小委員会	村上 宏康	中澤 宏
教育問題委員会	土屋 誠	稲田 祐治
地域創生委員会	池田 治郎	池田 安隆
ウェルビーイング小委員会	東出 悦子	石坂 兼人
文化スポーツ委員会	武内 孝憲	津嶋 春秋
アスリート支援小委員会	遠藤 忠洋	山野 昌道

富山経済同友会 役員名簿 (2023年度)

(敬称略、◎は新任)

特別顧問

【特別顧問】8名(うち、新任1名)

山田 圭藏	元 北陸電力(株)会長
古田 暉彦	元 北陸電力(株)副社長
中尾 哲雄	志道経営研究所代表
高木 繁雄	(株)北陸銀行特別参与
久和 進	北陸電力(株)相談役
米原 蕃	米原商事(株)特別顧問
新田 八朗	元 日本海ガス絆ホールディングス(株)社長
◎塩井 保彦	(株)広貫堂取締役会長

役員

【代表幹事】2名

麦野 英順	(株)北陸銀行特別顧問
牧田 和樹	(株)牧田組取締役社長

【副代表幹事】3名

桶屋 泰三	桶屋税理士事務所所長
大橋 聡司	大高建設(株)取締役社長
高林 幸裕	北電産業(株)取締役社長

【常任幹事】10名(うち、新任1名)

津嶋 春秋	(株)アーキジオ取締役会長
白倉 三喜	富山日産自動車(株)取締役相談役
稲田 祐治	加越能バス(株)相談役
池田 安隆	(株)池田屋安兵衛商店代表取締役
石坂 兼人	石坂建設(株)取締役社長
山野 昌道	(株)チューリップテレビ取締役社長
森田 弘美	(株)グループフィリア代表取締役
中澤 宏	(株)北陸銀行取締役頭取
中沖 雄	(株)富山銀行取締役頭取
◎松田 光司	北陸電力(株)取締役社長

【特別幹事】12名

金岡 純二	(株)富山第一銀行取締役会長
林 和夫	朝日建設(株)取締役社長
松原 吉隆	大同産業(株)取締役社長
多田 慎一	第一物産(株)相談役
金尾 雅行	富山港湾運送(株)代表取締役
藤谷 和彦	(株)OSCARホールディングス取締役会長
金岡 寛	金岡忠商事(株)取締役会長
若林 啓介	紙ぷらす(株)取締役社長
川本 元充	北陸機材(株)取締役会長
本田 百合子	アシシステム税理士法人代表社員
久郷 慎治	(株)久郷一樹園代表取締役
羽根 由	(株)生活ネット研究所代表取締役

【会計監事】2名

板谷 聡	板谷経営工房(有)取締役社長
中村 厚	日本クレアスコンサルティング(株)代表取締役

【幹事】87名(うち、新任7名)

四十物 直之	(株)四十物昆布取締役会長
浅野 雅史	(株)バロン代表取締役
浅林 孝志	(一財)北陸経済研究所理事長
池田 治郎	富山いすゞ自動車(株)取締役社長
石倉 央	(株)FP不動産センター代表取締役
伊勢 徹	(株)ライフサービス代表取締役
市森 友明	(株)新日本コンサルタント取締役社長
伊東 潤一郎	アイティオ(株)取締役社長
稲垣 晴彦	北陸コカ・コーラボトリング(株)取締役会長
稲田 裕彦	救急薬品工業(株)代表取締役
井上 敏夫	井上機材(株)代表取締役
庵 栄伸	(株)北陸銀行取締役会長
今井 壽子	(有)ゼフィール相談役
梅川 雅之	富山信用金庫常務理事
梅田 ひろ美	(株)ユニゾーン取締役会長

浦山哲郎	(学)浦山学園理事長	東出悦子	(株)アイベック代表取締役
◎遠藤忠洋	富山交易(株)取締役社長	福島鉄雄	(株)エフテック取締役社長
奥野博之	オークス(株)取締役会長	福田可也	(株)クレハロ取締役会長
押田洋治	(株)押田建築設計事務所取締役会長	藤井久丈	医療法人社団藤聖会理事長
小竹秀子	オダケホーム(株)取締役社長	細川泰郎	細川機業(株)取締役社長
片山浄見	(株)富山育英センター取締役会長	本間比呂詩	オリジン工業(株)取締役社長
川合紀子	(有)ステップアップ代表取締役	◎益田貴司	ブライオレーション3号機(ホテルグランテラス富山) 執役
河上弥一郎	河上金物(株)取締役会長	増山一雄	増山電業(株)代表取締役
神崎直志	三井物産(株)理事北陸支社長	松嶋重信	(株)司ファシリティーズ専務取締役
木村準	(株)日本抵抗器製作所取締役社長	水口昭一郎	立山科学(株)取締役会長
金田俊樹	(有)きんた代表取締役	翠田章男	(株)トンボ飲料取締役社長
黒田昭	(株)三田商会相談役	宮本一成	全日本空輸(株)富山支店長
小柴順子	(株)コージン会長	村尾于尹	(株)村尾地研取締役会長
小杉康夫	若鶴酒造(株)代表取締役	◎村上宏康	(株)ワプラス代表取締役
小林紀男	富山日野自動車(株)取締役会長	森弘吉	(株)エムダイヤ代表取締役
酒井郁生	(株)シー・エー・ピー代表取締役	森幹男	森商事(株)代表取締役
◎佐藤幸博	(株)柿里取締役社長	森田幸弘	(株)押田会計取締役社長
渋谷清澄	(株)エヌエスプレーン取締役社長	森藤正浩	正栄産業(株)代表取締役
島田俊晴	(株)島田樹脂代表取締役	◎柳川美千代	(株)モーヴ代表取締役
島田好美	(株)島田商店代表取締役	矢野茂	北陸電気工事(株)取締役社長
高木悦郎	T S K(株)代表取締役	山口昌広	北酸(株)取締役社長
高瀬幸忠	(株)スカイインテック取締役社長	山下清胤	三協立山(株)相談役
高田順一	阪神化成工業(株)取締役会長	山瀬孝	(株)ジェック経営コンサルタント取締役社長
高田千明	高田食糧(株)取締役社長	山田恵子	山田工業(株)取締役社長
高野二郎	タカノ建設(株)取締役社長	山村隆彦	(株)日立製作所北陸支社長
武内繁和	武内プレス工業(株)取締役社長	山本小恵	山本司法書士事務所所長
竹内茂	(株)婦中興業取締役社長	山本覚	(株)日本政策投資銀行富山事務所長
◎武内孝憲	(株)牛島屋代表取締役	遊道義則	(株)ユニオンランチ取締役社長
舘直人	たち建設(株)代表取締役	吉岡隆一郎	(株)文苑堂書店取締役会長
◎田中英敬	日本銀行富山事務所事務所長	吉田登	北登精機(株)代表取締役
田村元宏	(株)タムラ設計・代表取締役	米田祐康	金剛薬品(株)取締役会長
土屋誠	日本海ガス(株)取締役社長		
寺崎敏治	富山製紙(株)取締役社長		以上
寺下利宏	(株)ソシオ代表取締役		(2023年4月26日現在)
東澤善樹	とうざわ印刷工芸(株)取締役社長		
中川雅弘	(株)K E C 代表取締役		
永田義邦	(一財)北陸予防医学協会理事長		※当会では役職が代表取締役会長、代表取締役社長の
丹羽誠	(有)ライフプラン研究所代表取締役		場合、「代表」は省略させていただいております。
長谷佳子	(有)小杉スポーツ代表取締役		
長谷川達雄	中央薬品(株)代表取締役		
針田正尚	クリーン産業(株)代表取締役		

ポストコロナ／ウィズコロナ 富山観光のあり方

～ 地域創生委員会が提言 ～

地域創生委員会（山本委員長）は、今期活動の成果として提言『ポストコロナ／ウィズコロナの富山観光のあり方について～選ばれ続けるチャンスを活かす～』をとりまとめ、3月幹事会での審議を経て3月9日(木)に発表するとともに、同14日(火)に南里明日香 富山県地方創生局長へ手交した。

富山県では第3次富山県観光振興戦略プラン（計画期間：2022～2026年度）が策定され、目標達成指標である観光消費額の増



南里局長へ提言を手交する山本委員長（左）と稲田アドバイザー（右）

加に向けた取組みが始まっていること、北陸新幹線敦賀延伸（令和6年春）や北陸デスティネーションキャンペーン（令和6年秋）、大阪・関西万博（令和7年）など全国規模・世界規模のイベントが多数予定されることを背景に、国内外の様々なターゲット層に向けて富山の観光をPRする絶好の機会であると同時に「富山が選ばれるか」の分岐点であるとの認識のもと、経済界から見た富山県全体における観光の現状や先進事例などについて、講演会や県外視察、フィールドワーク、関係事業者へのヒアリングなどによる調査・検討を重ねるとともに、知見の習得・深化を図ってきた。

提言では、調査結果や統計データ、関連団体へのヒアリング結果を基に、富山の観光振興の課題を①北陸3県の交流促進と富山の観光地の認知度向上、②若年層を誘客する施策の推進、③五箇山、立山黒部など優れたコンテンツのさらなる充実や効果的PRなど総合的な施策の展開、④インバウンド観光客の消費を喚起する施策の推進、⑤地域観光資源の積極的・広範な発信、⑥スポーツ施設・チームとの観光面での連携強化、の6項目に整理した。

これを基に、来訪者や観光消費額の増加による富山県全体の観光振興を狙いとして、この実現に向けた方向性を①ターゲットに応じた効果的・集中的なPR展開、②官民連携によるブランディングの強化、③スポーツとの連携、とし、整理した課題ごとの方策（6項目）を提言した。提言の概要は以下のとおり。

〈委員長所感〉

来春の北陸新幹線敦賀延伸をはじめ、来年以降全国規模のイベントが多数予定されています。絶好のチャンスの中、富山観光の魅力が強力に発信し、富山が選ばれ続ける観光都市へ昇華して欲しいとの想いで取り纏めました（逆に云うと、選ばれるかの分岐点！）。

とやま観光小委員会、フィールドワークへの参加など委員の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



山本委員長

提言の概要

○提言の趣旨

来訪者や観光消費額の増加などポストコロナ／ウィズコロナでの富山の観光振興のあり方を提言

○提言の構成

1. 富山県における観光の現状

統計データや上位計画等より観光の現状を分析・整理

2. 先進事例調査・関連団体へのヒアリング

カテゴリ別に事例調査、関連団体へヒアリング

①事例調査：ユネスコ創造都市、スポーツツーリズム、まちづくりとの連携

②関連団体：ユネスコ創造都市加盟自治体、修学旅行関連団体、観光関連団体、スポーツ関連団体

3. 課題整理

現状や調査結果を基に、観光振興の課題を整理（北陸3県の交流促進、地域観光資源の積極的・広範な発信など6項目）

4. 提言

これからの富山の観光振興のあり方を提言（方策）

①マイクロツーリズムや北陸3県の連携推進

②「ものづくり」「SDGs」を修学旅行テーマとしてPR

③富裕層向け施策（PR、受入態勢強化など）

④インバウンド対応強化（おもてなしの充実等）

⑤認知度向上・ブランディング施策の推進

⑥スポーツイベント・合宿誘致、スポーツコミッションの設立等スポーツとの連携強化

「富山の未来を支える」人財づくり

～人財活躍委員会が提言～

人財活躍委員会（浅林孝志委員長）は、提言『アントレプレナーシップ人財育成プログラムから見えてきた「富山の未来を支える」人財づくりとは』をとりまとめ、3月幹事会での審議を経て、3月22日(水)に記者発表を行った。なお、会見には、浅林委員長、白倉三喜アドバイザー、村上宏康副委員長が出席した。

当委員会は前身の人財創出委員会がとりまとめた提言「富山県の活性化に資する高度人材の確保育成に向けた新たな協働・



左から村上副委員長、浅林委員長、三牧局長、白倉アドバイザー

連携事業の推進」の実践に向けて取り組み、今回の提言は、起業家育成に向けて実施した「スケッチオーデション」での気づきから、「アントレプレナーシップ教育」をテーマに策定した。

提言内ではアントレプレナーシップを「起業意思の有無に関わらず、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力で、すべての人が身につけるべき資質」とし、起業家だけでなく、社会や企業内の課題を自分事と捉え、解決し、新たな価値を創出していく「起業家の

ようなマインド」を持った人財の育成が必要と訴えている。

また、スケッチオーデション参加者にマインド変化が見受けられたことから、①価値観形成期にある若者たちのために、もっと地域課題解決を学ぶ体験を提供する、②産学官が一体となった、アントレプレナーシップが身に付く学びの場への支援を強化する、という2点を提言した。これにより、将来的な起業家の育成や企業内イノベーション、県民性の変化等が期待できる。

記者発表後には、三牧純一郎富山県知事政策局長へ提言書を手交し、意見交換も実施した。

提言の概要は、以下のとおり。

〈委員長所感〉

スケッチオーデションを通して、地域の課題解決のために真剣に取り組む若者たちが県内にしっかりと存在することが実感でき、大変頼もしく、また嬉しく思いました。また、その活動の中で得た気づきは、富山県の未来を切り開く一筋の光明となりました。



浅林委員長

未来を築く若者を育てるには、アントレプレナーシップの醸成が必要であり、新たな挑戦への支援や仲間づくりのためのプラットフォームが次々と構築されることを期待しています。

提言の概要

○提言の趣旨

アントレプレナーシップ教育を推進し、社会課題を自分事として捉え、失敗を恐れず、同じ志を持った仲間とともに使命感と熱意を持って新たな価値やビジョンを創造できる人財を育成する。

1. アントレプレナーシップ人財育成の必要性

アントレプレナーシップは、起業意思の有無に関わらず、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力であり、すべての人が身につけるべき資質である。

日本は他国と比較して「起業」というキャリアを望ましいと答える人が少なく、起業家の数が少ないというよりも、そもそも起業家を目指そうとする人の裾野が狭い。

少子高齢化が深刻化し、地域課題が山積するなか、社会も企業も既存の枠組みや従来の延長の発想だけでは、生き残ることが困難である。

起業家だけでなく、社会や企業内の課題を自分事と捉え、解決し、新たな価値を創出していく「起業家のようなマインド」を持った人財を育成することが必要である。

2. アントレプレナーシップ人財育成の現場からの気づき

起業家支援事業「スケッチオーデション」は地域人材の発掘・育成を主目的として伴走支援型のビジネスプランコンテスト。

社会的な課題解決に立ち向かうマインドセットの醸成に重きを置いており、コンテスト本番に向けてビジネスプランの考え方をインプットし、アイデアをブラッシュアップする過程を約半年間設け、アイデア創出からビジネスモデ

ルの確立までを伴走支援するプログラムとしている。

プログラムでの課題発見から課題解決に至るまでのグループワーキングなどを通して、参加者のマインドセットに変化が起きている。また、共通の問題意識を持った仲間たちとともに地域の課題解決に向けて積極的にチャレンジしようとしている人間が育っている。

こうした課題意識をもち積極的に取り組む人々を地域に育てる場をもっと増やすだけでなく、彼らの活動をサポートする仕組みが必要。

3. 富山の未来を支える人財づくりのための2つの提言

①価値観形成期にある若者たちのために、もっと地域課題解決を学ぶ体験をさせよう

・価値観形成期にあるものの、社会経験には乏しい高校生・大学生の成長につながる体験型プログラムを提供する

・現在は「講座やセミナー」「企業訪問」がメインの高校における社会学習において、地域課題解決のための体験プログラムを充実させる

②産学官が一体となった、アントレプレナーシップが身に付く学びの場への支援を強化しよう

・アントレプレナーシップが身に付く学びの場を増やし、課題解決に向けた体験ができる場を県内各地に増やす

・「横のつながりが可能なプラットフォーム」をつくるため、既存事業を活かし体験型プログラムに必要な施設および人的面でのサポートをさらに強化する

教育現場が教育支援をスムーズに受ける環境作り

— 教育問題委員会が提言 —

教育問題委員会（高瀬幸忠委員長）は、第12次委員会（令和3年度～令和4年度）の活動を総括し、提言「教育現場が『各界の教育支援』をスムーズに受けられるようにするため、1カ所に相談すれば目的を達せられる環境を作る」をとりまとめ、3月幹事会での審議を経て、3月23日(木)に記者発表した。会見には、高瀬委員長のほか、池田安隆アドバイザー、稲葉伸一副委員長が出席した。

今までの教育提言では取り組むべき方策を複数項目掲げていたが、今回の提言は、テーマを1つに絞って策定した。

県内の様々な経済団体が教育支援活動を行っているが、教育現場への周知が行き届いていなかったり、適当な相談先がわからない場合や数々の支援の中から適当なものを選ぶのに苦労していたり、教育現場と経済界の思いがミスマ



提言を発表する高瀬委員長（中央） 荻布教育長へ手交

ッチだったりといった実態がある。そこで、教育現場が『各界の教育支援』をスムーズに受けられるようにするため、1カ所に相談すれば目的を達せられる環境を作ることを提言した。これにより、教育現場の負担が大きく軽減され、各界の教育支援の活用がより進み、子どもたちの健やかな成長につながることを期待される。

提言の記者発表後には、富山県教育委員会教育長へ提言書を手交し、幹部職員との意見交換を行った。

提言の概要は、以下のとおりである。

〈委員長所感〉

第12次教育問題委員会では、富山県教育委員会と年2回の意見交換会を定例化した。数多くの相談や意見交換が行われる中で、我々の支援活動に対する現場の実態や評価に関するデータ



高瀬委員長

が少ないことがわかった。各種アンケートなどを行い、これまでの思い込みを見直し、より具体的な実効性のある提言を行った。教育現場の働き方改革の一助としても有効であり、実現することを願ってやまない。

提言の概要

○提言の趣旨

教育現場が「各界の教育支援」をスムーズに受けられるようにするため、1カ所に相談すれば目的を達せられる環境を作る。

1 経済界の支援

富山県経済界には様々な経済団体があり、各団体が教育界に対する支援活動を行っている。

2 教育界の問題点

他団体による多岐にわたる支援があるため、(1)周知が行き届かない、(2)数多くの支援の中から適当なものを選ぶのが教育現場にとって負担、(3)教育現場の思いと経済界の思いがミスマッチになることがあるという実態がある。

3 課題設定

【課題】地域社会や各種団体、企業各社において準備されている「子どもたちに対する教育支援活動」を教育現場に適切に周知すること、教育現場の目的やねらいに合致した支援提供先にスムーズに依頼できるようにするためには、どうすればよいか？

4 課題解決に向けて

関西において、経済界と教育界が「関西キャリア教育

支援協議会」を組織し、教育現場への支援側の窓口を一本化している事例を訪問・調査し、次のヒントを得た。

- ・キャリア教育に限定せずに教育支援全般について相談窓口の一本化を図るのが望ましい。
- ・各種団体等の支援活動を集約し、教育現場への周知活動や相談窓口の一本化を行うことが有効である。
- ・構成団体から支援内容を引き継ぐのではなく、支援は構成団体に残したまま、窓口で徹する組織を設立するのが得策と思われる。

5 提言

教育現場が「各界の教育支援」をスムーズに受けられるようにするため、1カ所に相談すれば目的を達せられる環境を作る。

これにより、教育現場の負担が大きく軽減され、教育全般における各種団体、企業の活用がより進み、子どもたちの健やかな成長に繋がるものと考えられる。

安全保障をテーマに約1,100人が長崎に集う

～ 第35回全国経済同友会セミナー ～

全国44の経済同友会が共催する「第35回全国同友会セミナー」が4月13日、14日の2日間、長崎市の出島メッセ長崎で開催され、約1,100人が参加のもと、「経済人として安全保障にどう向き合うか」を総合テーマに意見を交わした。

当会からは、中尾哲雄特別顧問、麦野英順・塩井保彦・牧田和樹代表幹事をはじめ21名が参加した。

開会にあたり、全国セミナー企画委員長の市川晃（公社）経済同友会副代表幹事が挨拶。続いて長崎経済同友会の森拓二郎代表幹事と大石賢吾長崎県知事が歓迎の挨拶を述べた。



第1セッションは「世界を取り巻く安全保障の現状と今後の国際秩序形成への課題」をテーマに安全保障の専門家による問題提起とパネル討議が行われた。これまで政府が判断してきた経済安全保障のリスクに対してコンプライアンスの観点で企業は取り組んできたが、今後は企業自らが経営判断としてどういうリスクをとるのかを考える必要があると指摘があった。また、米中対立が先鋭化し台湾有事の懸念も高まる中、いかに中国と向き合っていくかなどについて議論した。

第2セッションでは「サプライチェーンにおける経済安全保障」をテーマにパネル討議が行われた。冒頭で、議長から米国ではサプライチェーンの対策として、「ディマニファクチャリング」の考え方の下、産業構造の転換が進みつつあることなどの紹介があり、その後3人のパネリストが自社・業界のサプライチェーンの対応策を説明した。



懇親パーティーで

龍踊り（じゃおどり）

は鶴鳴学園長崎女子高等学校 龍踊部が郷土芸能「龍踊り」を披露した。また、マグロの解体ショーなど長崎の特産品をふんだんに使った料理とお酒でおもてなしをいただいた。

その後、長崎市内の居酒屋に会場を移して恒例の富山経済同友会懇親会「富山ナイト」を行った。



富山ナイト

2日目の第3セッションでは「企業・経営者は安全保障にどう向き合うか」をテーマにパネル討議が行われた。4人のパネリストから、台湾有事を想定したシミュレーションの実施、産業界の垣根を超えた情報連携の重要性、経済インテリジェンス機能の強化、ビジネスの国内回帰、食料安全保障など、企業経営者が経済安全保障と向き合う中での指針をいただいた。議長は日本企業の技術サービスが他国企業・サプライチェーンにおいて欠かせない存在となることで、他国からの外圧を抑止することができるようになる。企業の自立性・不可欠性を高めることがわが国全体の安全保障に貢献することに繋がると纏めた。

櫻田謙悟（公社）経済同友会代表幹事がセミナーを総括し、社内に経済インテリジェンスの専門家を育成する必要性などを訴えた。

その後、(株)ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼 CEO の高田旭人社長が「民間主導の地域創生モデルについて」～長崎スタジアムシティプロジェクトにかける思い～と題し、2024年の長崎スタジアムシティプロジェクト開業に向けて現在取り組んでいることや、どのような未来を目指しているのかを講演した。

閉会にあたり、次期開催地である福井経済同友会の林正博代表幹事及び同会の参加者一同が次年度セミナーへの参加を呼びかけた。田上富久長崎市長の御礼挨拶の後、長崎経済同友会の東 晋代表幹事が閉会挨拶を行い、2日間のセミナーが終了した。

多様性推進に向けてトップが果たす役割

岡島 悦子 氏講演 — 3月会員定例会 —

3月会員定例会が3月6日(月)、富山電気ビルディングで開催され、株式会社プロノバ 代表取締役社長、株式会社ユーグレナ 取締役CHRO(非常勤) 岡島悦子氏が「多様性を活かし、組織成果を最大化するマネジメント手法とは」と題して講演を行った。今回は人財活躍委員会(浅林孝志委員長)が主管し、会員約150名(オンライン視聴含む)が参加した。

最初に岡島氏は、人材はコストではなく、投資価値のある資本として扱われるように変化してきていると説明したうえで、多様な属性ではなく、多様な視点・経験を経営に取り入れて意思決定することでイノベーションを創出し、非連続の成長を実現していくことが企業における多様性推進の意義であると語った。また、経営トップ層だけが多様性推進について理解しても、管理職層やメンバー層が共通言語で話せないことが進まないため、多様性推進のためには三層で並行して行う三位一体の取り組みが必要になると述べた。

続いてVUCAのなか、ステイクホルダーからは戦略の正確性より納得性が求められる時代に変化していると説明。新しい時代に求められるリーダーシップは、これまでの上位下達の形

ではなく、背後から羊を追い立てるようにメンバーを動かす「羊飼い型リーダーシップ」であると述べた。顧客に一番近いところに多様な能力を持ったプロフェッショナルを集め、それらの異質な人材が活躍できる環境を後方から整備することがこれからのリーダーの仕事であると説明した。

また、女性・若手社員のマネジメント法については、上司が期待を示してメンバーの「自己効力感(未知のものへチャレンジする自信)」を育み、機会損失が生じないようにすることが大切であると説明。特に女性のキャリアにおいては、20代で3つの部署やプロジェクトを経験させる「前倒しのキャリア®」開発を推奨し、早めに成長の機会を与え、自己効力感を高めることがライフイベントを超えて活躍してもらうために重要であると説明した。

最後に岡島氏は、「経営層の皆様が、多様な人材の活躍が自社の成長に必要なだと本気で信じ、繰り返しコミュニケーションを行い、多様な人材を登用する仕組みを意思を持って作ることで、多様性を活かすマネジメントができていくと思っています。」と参加者に伝え、講演を締めくくった。

3月会員定例会(2023.3.6)講演録

「多様性を活かし、組織成果を最大化するマネジメント手法とは」

株式会社プロノバ 代表取締役社長/株式会社ユーグレナ 取締役CHRO(非常勤) 岡島 悦子 氏



(プロフィール)

ヒューマンキャピタリスト、経営チーム強化コンサルタント、リーダー育成のプロ。三菱商事、ハーバードMBA、マッキンゼー、グロービス・グループを経て、2007年プロノバ設立。丸井グループ、セブテーニ・ホールディングス、マネーフォワード、ランサーズ、ヤプリにて社外取締役。20年12月より、ユーグレナの取締役CHRO(非常勤)に就任。世界経済フォーラムから「Young Global Leaders 2007」に選出。著書に『40歳が社長になる日』(幻冬舎)他。

◆ 多様性推進経営の本質

企業における人材マネジメントの考え方は相

当変遷しております。以前は人事・労務管理の対象であり、人材はコストでしたが、2010年代

KOUENROKU

はタレントマネジメントが主流で、人材は貴重な資産と考えられるようになりました。そして、20年代に入ると人的資本経営という考え方になり、人材は投資価値のある資本であり、人的資本の情報開示が義務化される時代となりました。

ダイバーシティ推進というと、多様な人材(ダイバーシティ)を社内に入れ、その人たちに公平な機会(エクイティ)を提供し、そこから出てきた意見を包含すること(インクルージョン)とお聞きでしょうが、その対象領域が、性別、年齢、国籍等の多様な「属性」だけではイノベーションは起こりません。属性が多様であることよりも、議論の際に従来の当たり前やバイアスを外せる多様な視点があるか、前提条件に反する問いを立てられるかどうかが大事です。こうした異なる視点を取り入れて、経営の意思決定につなげることがダイバーシティ推進を行う意義です。

例えば、私が取締役CHROを務めるユーグレナで、最もダイバーシティな人材は18歳以下のCFO(チーフ・フューチャ・オフィサー)です。ユーグレナでは、数年前から将来世代の方々に経営に参画していただく取り組みをしています。彼ら、彼女らから、「サステナビリティ・ファーストの会社なのに、ミドリムシ由来の飲料をなぜペットボトルで売なのか」と、取締役会で耳の痛い指摘をされました。経営はCFOからの提言を受け入れ、コストはかなり上がるのですが環境を優先し、ペットボトル飲料を全廃しました。これがまさにダイバーシティが経営の意思決定に反映された事例の一つではないかと思います。

属性の多様性、視点・経験の多様性、と来て、その次のダイバーシティの対象領域はイントラパーソナル、つまり個々人が持つ経験の多様性です。既にこの領域に着手している丸井グループでは、事業の3本柱である小売とフィンテックと共創投資、この3つの事業会社をまたいで異動した人が77%に上ります。複数の事業を経験することで、個人の中に経験の多様性が生まれ、こうした人たちが業界で様々な新しいビジネスモデルを立ち上げております。

現在、日本の多くの企業はダイバーシティ

2.0の状況にあると思います。2030年頃にダイバーシティ3.0を目指すため、自社の意思決定ボードにどのような多様な構成要素があるとイノベーションが起きやすいのか、を企業は仮説検証したいのです。構成要素はそれぞれの会社で異なるので、100社あれば100通りの構成要素、つまりレシピがあるわけですが、それを仮説検証しようにも、現状の意思決定の母集団が、50~60代で、プロパーの男性ばかり、だと構成要素が見つかりません。そこで、ダイバーシティ2.0、まずは「属性」に注目し、マイノリティの中の一番大きな塊である「女性」を意思決定層に取り込むことから着手している企業が多いのです。ですので、女性活躍推進は、多様性推進の「一つ目の矢」だと思っていただくと良いと思います。

「ヨコの議論」と言われる、従業員数における女性比率の向上については決着がついてきた企業が多いようですが、問題は「タテの議論」、女性の管理職比率の向上であり、これがなかなか進んでいないのが現状です。

従来、多くの日本企業では、新卒一括採用で、新入社員に丁寧なOJTをすることでその企業の色に染め上げ、上司との「あうん」の呼吸が通じるようなハイコンテクストカルチャーを醸成してきました。これは意思決定がスピーディーに行える点ではよいモデルでしたが、「変化に弱い」という致命的な弱点があります。言わば、個々人の免疫システムが非常に似てくるので、大きな環境の変化が起きたときに、みんなが同じ反応をすることになってしまうのです。しかし、マイノリティの人が意思決定に加わると、違う反応が生まれ、生き残れる可能性が増します。つまり、多様性推進はサバイバル戦略ということなのです。

多様性推進を進めている企業では、少し副作用も出ております。企業はダイバーシティ推進によって、成長したい多様な個人を支援し、「働きがい」をつくりたいのですが、特に若手、ミレニアル世代やZ世代の方々が「ワーク・ライフ・バランスのある会社で働きたい」など、「働きやすさ」をやたらに求める現象が見られます。一方、経営側も同じで、多様性推進は「成長支



援]であり「弱者救済」ではない、とブレずに言い切っておりません。多様性推進は、例えば、

いろいろなライフイベントがあり、働く場所や時間にはある程度の制約があるけれど、会社の成長のために自分も成長したいと思っている社員のために環境整備を柔軟に行い、挑戦する人を応援する成長戦略です。聞こえがいいからと弱者救済に近いことをやっていると、多様性推進による付加価値が出ず、非連続の成長につながっていきません。

多様性推進で最終的にやりたいことは、CX（コーポレート・トランスフォーメーション）です。昭和型のマネジメントを脱却し、自律した個人に権限委譲してどんどん機会を与え、働き方も含めた、組織のOS（オペレーション・システム）を変えていくことが最終ゴールです。

組織のOSまで変化させた例で言えば、例えば、カルビーでは、時短勤務で執行役員を務める女性が多く、付加価値を創出し、営業成績を大きく伸ばしました。また、日本のアクセントでは、18時以降の会議の全廃で、結果として各階層で活躍する女性が相当増えました。

また、経営トップの方々だけが多様性推進について理解しても、管理職層やメンバー層の方々共通言語で話せないと食い違いが生じて事が進まないため、多様性推進のためには三層が並行して行う三位一体での取り組みが必要になります。

◆ 上司の意識変革 1

～新時代のリーダーシップ～

では、経営戦略として多様性推進を行い、バイアスを外す視点を意思決定に入れて非連続の成長をしていくためには、どのようなリーダーが求められるのでしょうか。

従来の画一的な組織から、多様性を活かす組織への転換が必要な中、リーダーシップの型は

変わってきました。経営者の皆様には「釈迦に説法」かと思いますが、私はリーダーシップ論の教授として、これまで、「リーダーシップとは変革能力である」、つまり変化が起きたときに戦略を変更し、新しいビジョンへ人と組織を動かす能力である、とお教えしてきました。例えば、ドラクロアの絵画「民衆を導く自由の女神」のように、リーダーはビジョンを示した旗の下にフォロワーを集め、インセンティブを与えてモチベーション上げ、フォロワーのエンゲージメントを高めて変革を推進していく、というイメージです。しかし、現在の大きな問題は、VUCA（ブーカ）の時代である、ということで、先が見えない中で、旗をどう立てるのか、という問題が起きています。今までは「売上やROEを幾らにする」や、様々なKPIやKGIを持つなど、数値目標となる旗は立てやすかったのですが、コロナ禍になって中期経営計画の前提条件も大きく変わってしまいました。

正確な将来予測が困難な時代となる中、今一番注目されているのがセンス・メイキング理論です。メイク・センス、つまり、正確性ではなく納得性の高さが非常に重要になるということです。経営者がいかに正確な旗を立てるかよりも、ステイクホルダーにとって納得感が得られる形で世界観を語るができるか、数字よりストーリーを語る事が重視されています。多くの企業が、パーパス経営、価値創造ストーリーなどを掲げ、自社の世界観を提示するようになっているのは、こうした潮流です。

そうした中で、ハーバード・ビジネススクールの教授で、私の恩師でもあるリンダ・A・ヒルは、著書『コレクティブ・ジニアス』の中で、これからのリーダーシップは「逆転のリーダーシップ」であり、「羊飼いの型」だと指摘しました。

これまでのような、リーダーによる上意下達でのリーダーシップをカリスマ型とすると、羊飼いの型は、リーダーが背後から、文字どおり羊を追い立てるようにメンバーを動かすスタイルです。ポイントは、顧客と対峙する一番のフロントに、多様性を持つ異質な天才たちを集める（集合天才）ことです。こうした異質な個人が切磋

KOUENROKU

琢磨しなければ、イノベーションは起きないのです。

例えば、「トイ・ストーリー」で有名なアニメ制作会社のピクサーも、羊飼い型になっています。顧客に一番近いところに、アニメーションや音楽だけではなく、知財やファイナンス、セキュリティ等のプロがいて、それらの天才たちが、顧客と一緒に喧々諤々と議論し、切磋琢磨して新しい価値を共創していくのです。

したがって、次代を担うリーダーは、カリスマでなくても、集合天才たちを背後から指揮する羊飼い型であればいいのです。多様な天才たちがお互いを信頼し、意見を出しやすい環境をつくり、その中から対話を通じてサービスを昇華させていくことができるような組織設計を行い、環境整備を行う者こそが、これからのリーダーなのです。

また、イノベーションというとプロセスやプロダクトの話になりがちですが、例えば日本の自動車メーカー各社の時価総額を全て足しても、新しいビジネスモデルを創っているテスラ1社の時価総額にかなわないことを考えても、これから必要となるのはビジネスモデルや産業構造そのもののイノベーションでしょう。

一方、今の管理職の方々は、知の幅を広げつつ（破壊的創造）、深化させる（持続的成長）「両利きの経営」が必要なので、非常につらい立場にあると思います。目の前のビジネスを持続的に改善して、短期的な利益を上げていくことと、破壊的なイノベーションを起こして、中長期的な利益を生み出すことの両方を進めなければいけません。

そうなったとき、持続的成長を推進するイノベーターは後天的に育成できますが、問題は破壊的なイノベーターの方です。いまだに破壊的なイノベーターをどう育成できるか、の方程式は見つかっていません。唯一あるとすれば、早めに意思決定の機会をたくさん与えることで、直感が生まれ、破壊的なイノベーターの芽が出てくるということです。多くの対戦を通じてスポーツ選手や棋士に試合勘が出てくるように、意思決定を繰り返すことで直感が出てきて、そこから新しいビジネスモデルやサービスの種が出て

くるようなことかと思えます。

したがって、経営者の方々には、とにかくマイノリティを含む多様な人たちを試合に出す、要は機会を提供してくださいと申し上げており、これが自律的な成長を支援することになると思っています。

◆ 上司の意識変革2

～女性／若手社員のマネジメント法～

多くの企業で、「女性社員は管理職になりたがらない」とか、「女性管理職のロールモデルがないので目指せない」、と言われる。この裏側にある原因が、延べ3万人の女性たちとワークショップを行う中で分かってきました。原因は、先天的な男女の性差によるものではなく、後天的に女性にかけられた「呪い」です。私は、こうした呪いを「妙齢女性のかかりやすい『10大疾病』』としてまとめました。女性は小さなおきから、家庭や学校など様々な場面で「協調性を持ちなさい」とか、「悪目立ちしないように」、などと言われ、同調圧力がかかり易い傾向にあると思います。

例えば、10大疾病の一つが「まだまだ病」です。これはアメリカでもインポスター・シンドロームとして知られる現象ですが、「このプロジェクトに入らない?」「昇進試験を受けない?」などと誘われても、女性は「いえいえ、私なんてまだまだ」と辞退しがちな現象のことです。即承諾せずに2回ほど断り、それでも勧められれば「上司がそこまで言うなら…」と言い訳しながら引き受けるのですが、一方の上司たちは、「これ以上勧めるとパワハラになるかもしれない」と2回目で諦めてしまうので、不幸なミスマッチが起こります。女性は、男性と比較すると自分を過小評価しがちな傾向があり、加えて、謙讓の美德がある日本では、自分から「やります」とはなかなか言えません。

これが、要



は機会の損失となっているのです。本人が悪いわけでも、意識の問題でもなく、「協調性を持たなくては」「目立たないようにしなくては」という呪いを誰も解いてあげていないことが原因です。したがって、上司や経営者の皆さんが「やりたいなら、やりたいと言っていいよ」、「ぜひやってみたら」と背中を押してあげないと駄目なのです。

女性が10大疾病にかかり易い、その根源にある原因は、「自信のなさ」です。自信には2種類あり、今日ぜひ覚えて帰っていただきたいのが「自己効力感」です。「自己肯定感」は「過去の自分に対する自信」なのに対し、自己効力感とは「未来の自分に対する自信」です。要するに、未知のチャレンジを与えられた時に、「大変そうだけど、私なら、やれそうかも」と思える気持ちのことです。上司の皆さんは、この自己効力感をご自身のメンバーにぜひ育てていただきたいのです。

身近な例ですが、ユーグレナの出雲社長は自己効力感が非常に高い人物です。19年前に「ミドリムシで人と地球を健康にする」と掲げて各社から出資を募り、500社からお断りされましたが、必ず協力してもらえると信じていたそうです。ミドリムシとは、微細藻類なのですが、その「ミドリムシ由来のバイオジェット燃料で飛行機を飛ばす」と掲げたときも、「自分はビッグマウスではなく、本当にそれが実現する世界がくっきりと見えているんです」、と言っていました。実際、昨年このバイオジェット燃料が政府専用機に採用されました。

部下の方々に「私なんてまだまだ」と言わせず、打席に立ってもらうためには、自己効力感を育てることが大変重要です。多様性推進が進み、女性を含む多様な人材に機会が提供されても、肝心の本人がチャレンジしなければ付加価値創出に繋がりません。多様性推進が機能するためには、全て社員の方に自己効力感を持ってもらうことが、一番早いと思います。

心理学者のバンデューラは、自己効力感を育むための4要件を示しています。1つ目が「制御体験」です。これは、相似形の成功体験が自分にあると、さらに大きなチャレンジでも「で

きそうだ」と思える、というものです。2つ目は「代理体験」、いわゆるロールモデル体験です。身近な誰かの成功を見ると、自分もできそうだと思うものです。ロールモデルは、一人だけでは特別視されてしまいますので、複数のモデルがいるということが重要です。3つ目は「言語的説得」ですが、上司の皆さんにはよく覚えていただきたいのですが、これが大変に効きます。「あなたにはこうした能力があるから、このチャレンジもできると思うよ」と言語的に励まし、期待を示す、と言うことです。特に女性は、何らかのポストに抜擢された際に「なぜ私なのか」と聞きがち傾向があると思いますので、日頃から部下をよく観察し、言語的に期待を示していただきたいのです。最後の4つ目が「生理的状态」、つまり心身ともに健康である、と言うことです。この4要件がそろると、自己効力感が生まれ、未来への挑戦に自信が出てきます。

◆ 前倒しのキャリア開発

さて、女性のキャリア開発について少しだけ触れておくと、プロフェッショナルとしてやっていく分には、男女ともにキャリア開発方法に差はないと思います。ただ、出産を考慮すると女性は早めの成果が必要かなと思っており、「出産という選択肢を持っておきたい」という女性には「前倒しのキャリア®」をお勧めしております。

女性は、先ほどの10大疾病にかかったり、ライフイベントを迎える人が周りで多くなる28歳頃から、仕事に少しサイドブレーキを引き始める人が多いように思います。「まだまだ」と言っていて管理職になることが後ろ倒しになったことで、管理職になる時期と出産時期が重なることも多く見られます。そして、産休・育休から復帰するときに前の部署に戻れず、初めての部署に異動になるということもよくあります。そうすると、子育て初めて、管理職初めて、その部署初めて、と3つのハードルがいつぺんに来る、ということがあるのです。これはやはり、大変すぎると思います。

「出産を早くして」とは会社からはとても言えませんし、女性だけを早く管理職にするのも

KOUENROKU

相当ハレーションがあります。ですから、私は、3つのうちの一つ、「復職後が初めての部署」というのをやめて、3つのハードルをばらかしませんか、ということをお願いしています。

そこで、20代のうちに前倒して、例えば営業→人事→営業企画というように3つほどの部署やプロジェクトを経験していただくのです。そうすると、変化への適応力が出て、先ほどの自己効力感も上がってきますし、復帰する際に「あの人ならうちの部に戻ってきて欲しい」と手を挙げてくれる部署も増えるので、多くの企業でこの「前倒しのキャリア®」開発をお勧めしているのです。

ここで間違えてはいけないのが、ライフイベントを遅くしてください、とは申し上げておりません。ライフイベントは相手もあることですし、自分で時期がコントロールできないことも多いと思います。そのため、むしろ自分でコントロール可能な仕事で早めに小さな実績をつかって自己効力感を育み、キャリアの早い段階で「働き方の自由度」を獲得してください、と申し上げています。リクルートではこれが大変うまくいっており、今やマネジャーの4人に1人がワーキングマザーです。

その際、「小さな実績」とは何か、という質問をよく受けるのですが、小さな実績とは、社内で抜擢される時に「あなたを想起されるキーワード=タグ」になる要素のことです。ワークショップでは、「あなたの強みを名刺に#（ハッシュタグ）で3つ書いてください」というようなワークをやっていきます。単に「英語が得意」とか「データ分析が得意」といったタグをつけても、得意な人は他にもたくさんいます。ですから、それぞれの小さな強みを掛け算にして、タグ（強み）の掛け算で比較優位性をつくり出すのです。そうすると、自分にも自信が出てきますし、「あ、あの人ね。うちの部署に戻ってき



てもらいたい

な」と想起されるようになると思います。

また、キャリア開発には、スタンフォード大のクランボルト教授が提唱する、「ブランド・ハップンスタンス・セオリー」が非常に重要な論点になります。キャリアの転換点の大半は偶然によって起きるが、ただ「運がいいよな」という人は、運が向くようにしっかりと努力してきた、つまり、良い偶然が起きていることは必然である、という理論です。私はこのセオリーを「棚ぼた理論」と呼んでいますが、ぼた餅（チャンス）を得るためには、自ら棚の近くに行って、上を向いて準備をしておく必要がある、ということです。

◆ ネバー・トゥ・レイト (Never too late)

「前倒しのキャリア®」開発をすることで10大疾病の予防は可能であり、ぜひ経営者の皆さんには、若手を打席に立たせ、意思決定の場数を増やしていただきたいのです。不確実な中でどんどん意思決定することで自己効力感が得られ、活躍できるようになります。

一方で、我が社はあまり新卒を採っていないとか、社員がキャリアを前倒しできるような年齢層ばかりじゃない、と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、私は、キャリアは「ネバー・トゥ・レイト」であり、どんな年齢になっても、その人の強みを認識し、打席に立ってほしいという期待を言語化してあげることが最大のスポンサーシップだと思っています。

リーダーがすべきことは、10大疾病に負けないような自己効力感を部下に早期に獲得させることです。その中で、多様性推進という文脈では、例えば、「男性は仕事、女性は家事・育児」といった、性別役割分担意識から生じるアンコンシャスバイアスによって、マイノリティである女性に機会損失が生じていないかを考えていただくことも大事です。経営者の皆様には、多様な人材の活躍が我が社の成長に必要なだと本気で信じ、繰り返しコミュニケーションし、偶然に任せず必然的に多様な人材が登用される仕組みを社内に作っていただくことで、多様性を活かすマネジメントができていくと思っています。

委員会活動を振り返って

～ 第4回委員長連絡会議 ～

4月3日(月)、ごんべい舎において、第4回委員長連絡会議(高林幸裕企画委員長)を開催し、委員長7名が参加した。同連絡会議は委員長相互の情報共有・連携・啓発を目的に、四半期に1回開催しており、今回が最終回の4回目の会議となった。

高林委員長の挨拶の後、各委員長から2022年度の活動の振り返りや次期委員会に向けた課題の共有が行われた。各委員会の活発な活動を次期に繋げていくための貴重

な機会となった。

会議後の懇親会には、麦野、塩井、牧田代表幹事も参加し、委員長の労をねぎらった。



SDGs

4 質の高い教育を
みんなに



2年間の活動を総括 — 第10回教育問題委員会 —

第10回教育問題委員会(高瀬幸忠委員長)を3月22日(水)、オクスカナルパークホテル富山で開催し、委員20名が参加した。

会議では、高瀬委員長が挨拶の後、提言の内容を説明した。提言は、3月23日(木)に記者発表を行い、県教育長への手交を行う。

続いて、作成中の活動報告書を用いて2年間の活動の振り返りを行った。そして、「当会の中で最も歴史のある教育問題委員会は、今後も変わらずに教育の諸問題に取り組んでいくものと



高瀬委員長

思っている。我々の共通の目標である子どもたちの健やかな成長のため、教育関係者との交流を継続し、日本の教育システムの根幹にある問題にも取り組んでいただければと思う」と次期委員会への想いを語った。

最後に高瀬委員長が「この2年間、コロナ禍で満足な活動ができなかった時期もあったが、皆さまに活動いただいたことに感謝申し上げます」と挨拶し、会を締めくくった。



SDGs

11 住み続けられる
まちづくりを



ウェルビーイングを学び、今期活動を完結 ～ 第19回地域創生委員会(最終回)～

令和5年3月27日(月)、富山電気ビルディングにおいて第19回地域創生委員会(山本覚委員長)が開催され、委員ら71名が参加した。今回は2部構成とし、第1部は富山県成長戦略の中核に掲げられている「ウェルビーイング」をテーマとした講演会、第2部は今期活動報告を行った。

山本委員長



第1部 講演会①

講師：三牧 純一郎 氏(富山県知事政策局長)

三牧氏より「富山県成長戦略におけるウェルビーイング指標策定の意義」と題し講演いただいた。

三牧氏はまず、富山県成長戦略の6つの柱(まちづくり、ブランディング、新産業など)全てに“ウェルビーイング”を盛り込み、戦略の中核とした経緯を紹介



三牧 純一郎 氏

した。また、この実現には県民の認知度向上と施策の決定・評価が不可欠であることから、県民意識調査結果を基に多様な県民意識を可視化するとともに政策形成への活用を目的として、富山県独自のウェルビーイング指標を策定したものであると強調した。

次に、指標の構成として①全体で捉える「総合指標」、②様々な側面から捉え、総合指標との関連を評価する「なないろ指標」、③個々のウェルビーイングを支え、高める社会的な関係を捉える「つながり指標」の区分に整理し、区分ごとに主観的要素を含めた評価項目を設定していることなどを説明した。

最後に、指標全体像を花に見立てて、県民に分かりやすく視覚的に表現するとともに、基礎データと併せて課題・ニーズの可視化や効果検証、県政施策の横連携に活用するとし「県民の皆さんと共に考え、行動し“ウェルビーイング先進地 富山”から、新しい日本の未来を創造していきたい」と呼びかけ、講演を締めくくった。

講演会②

講師：松村 若菜 氏

(日本電信電話(株)新ビジネス推進室スマートシティ担当部長)

松村氏より「Sustainable Smart city Partner Program (SSPP：サステナブル・スマートシティ・パートナー・プログラム)」と題し講演いただいた。

松村氏はまず、SSPPとはNTTグループのスマートシティ推進に向けた地域・住民の幸せ



松村 若菜 氏

(Well-Being)の最大化につなげる持続的・自立的な仕組み

を共創する“場”を提供するものであるとし「まちづくりの主役は住民や企業、自治体などであ

る。多様なソリューションを提供し地域の特色をより活かすことで“サステナブルでWell-Beingな”まちづくりを支援するものである」と強調した。

次に、SSPPの構成として①スマートシティISO37106を国内で初の認証を取得(NTT東桜街区：名古屋市)し、国内初の自治体の認証取得を全面的にサポートする体制を構築、②Well-Beingを軸にしたまちの豊かさを都市機能や住民らの満足度・幸福度を尺度として可視化する取組み“SUGATAMI”、③スマートシティ推進を担う人材を育成するプログラム“まちづくりソーシャルデザイナー”を紹介した。

最後に、SSPP会員の自治体や教育機関はもとより、各分野の有識者29名をアドバイザーとして連携しているとし「三位一体の取組みにより、特徴ある個々のまちづくりを様々な角度から支援していきたい」と語り、講演を締めくくった。

第2部 今期活動報告

山本委員長より、提言の策定やフィールドワークを対象とした観光ガイドブックの制作、県内外の視察など今期活動概要を報告した。続けて、市森友明副委員長より、今期活動テ



市森副委員長

ーマのひとつであるスポーツを対象に「グラウジーズアリーナ整備を核とした富山駅周辺スポーツまちづくりについて」と題し、活動概要を報告した。

参加者は、活発に活動した今期を振り返るとともに、富山県成長戦略におけるウェルビーイング指標の概要や民間企業による先進的な取組みなど、ウェルビーイングに対する知見を深める充実した委員会となった。





練り上げたビジネスプラン

～ スケッチオーデション予選・決勝プレゼンテーション～

●スケッチオーデションとは・・・

富山経済同友会（人財活躍委員会）、とやま未来共創チーム、富山ニュービジネス協議会、富山大学が共催する地域人材の育成・発掘を主目的としたビジネスプランコンテストであり、昨年10月からグループワークや講義を通して、ビジネスプランの考え方のインプットとアイデアのブラッシュアップがなされてきた。

プログラムの総合プロデューサーを富田欣和

氏（関西学院大学 専門職大学院経営戦略研究科 教授）、メンター担当講師を渡辺今日子氏（慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 特任助教）が務めるほか、毎回、ゲスト講師による特別講演を開催してきた。

Day 7 から Day 8 は予選プレゼンテーション、決勝プレゼンテーションが開催され、優勝、準優勝、特別賞、メンター賞が決定した。

● Day 7 (予選プレゼンテーション) (3月18日(土))

予選プレゼンテーションは富山大学 黒田講堂で開催された。最終的にプレゼンテーションへエントリーした33組のうち、予備予選を経て、当日は16組がプレゼンを行った。審査員は、富山経済同友会（人財活躍委員会）のほか、富山ニュービジネス協議会、とやま未来共創チーム、富山大学から選出された。



冒頭、富山ニュービジネス協議会 塩井会長が開会挨拶を述べ「過去最多の参加者を迎えた3回目のスケッチオーデションのカリキュラムでは、特別講演や熱い議論がなされ、大変刺激的であったと思う。

本日の予選、明日の決勝を大きな契機とし、皆様には社会や企業を変える、または起業を目指す、そんな思いを持って今後も進んでいただき



塩井会長

たい」と一同にエールが送られた。

予選大会は7分間のプレゼンと3分間の質疑応答で

進められ、出場者は限られた時間で、半年間の学びを活かしたビジネスプランや熱い想いを発表した。審査員からも質疑やフィードバックがなされ、会場は大いに盛り上がった。

出場者のプランに優劣をつけ難く、審査は難航したが、8組が勝ち上がり、決勝プレゼンテーションに進出した。

終わりに、浅林委員長が「期待以上に中身の濃い16組のプレゼンテーションで、皆さんを見ていると未来は暗くない、課題は解決できる、という嬉しい想いを抱いた。残念ながら

選ばれなかった方々も、引き続き産官学でフォローしたいので、今後も富山県そして日本の課題解決に尽くしていただきたい」と予選プレゼンテーションを締めくくった。



浅林委員長

● Day 8 (決勝プレゼンテーション) (3月19日(日))

決勝プレゼンテーションはオークスカナルパークホテル富山で開催された。予選プレゼンテーションを勝ち上がった8組がプレゼンを行い、当会の会員のほか、富山ニュービジネス協議会、

とやま未来共創チーム、富山大学からも多くの関係者が駆け付けた。決勝大会は7分間のプレゼン後、質疑応答の時間が更に7分間設けられ、審査員にはベンチャーキャピタルから3名の方にお越しいただいた。

初めに、麦野代表幹事から開会挨拶があり「3回目となるスケッチオーデション決勝大会には本当にたくさんの方にお越しいただいた。一昨年からはじめましたスケッチオーデションは、昨年からの伴走



麦野代表幹事

支援の形に加え、今年は富山大学や現役スタートアップ企業の経営者の方にも参加いただき、ビジネスに至るまでの過程で様々な支援をいただいた。過去最多の参加者の中から、昨日の予選を通過した8組のプレゼンには是非期待したい」と一同を激励した。



8組のプレゼンでは、耕作放棄地を活用したオリーブ栽培事業や、子育て世代の繋がりを提供するサービスなど創意工夫に富んだプランが提案され、審査員の活発な質疑やフィードバックに、出場者は真摯に受け答えをしていた。

また、審査集計の結果が出るまでの間、メンターから半年間の取り組み報告や、過去の受賞者からの近況報告などがなされた。結果発表の前には、藤井裕久富山市長から「失敗しても何度でも挑戦できる富山市でありたいと思っており、これからも皆さんと夢を追って、素晴らしい将来を創っていき



藤井富山市長

たい。これからも一緒に頑張りましょう」と一同にメッセージが送られた。厳正な審査の結果、優勝は学級日誌をデジタル化したサービス「Diario」を提案した森佑太さん（高校2年生）、準優勝は複数社による同時査定マッチングサービス「Car bit」を提案した小坂太貴さん、特別賞は職業体験を通してその土地に触れることができるプラットフォーム「大人のキッズニア」を提案した杉本和也さんがそれぞれ受賞した。また、予選大会に進出できなかった参加者のうちこれまでの取

り組みを評価され、池田和樹さんにメンター賞が贈られた。

その後、総合プロデューサーの富田氏から総評があり、「昨日の予選からほとんど全員がプレゼンテーションを変えてきたことに驚いた。ほんのちょっとした時間でもより良いものにしようと自発的に考えて取り組むムードが出てきて、更に通過できなかった方が出場者をサポートしている、この形こそがスケッチオーデションの財産ではないかと思う。これが更に2年、3年と続いていけば、大きなうねりになり、富山がもっと良くなっていくと感じた。皆さん、本当にありがとうございました」と述べた。



富田 欣和 氏

最後に、富山大学 齋藤滋学長から閉会挨拶があり「富山全体を元気にするには皆さんの若い力や新たなイノベーション、そして協力して物事を成し遂げていく姿勢が重要。今後の皆さんの活躍に期待し、これからもスケッチオーデションでできた繋がりを大事にしていていただきたい」と締めくくった。



富山大学 齋藤学長

終了後は、会員と参加者、メンター、審査員、先生方との交流がなされ、牧田代表幹事からは「皆様方に今後ともスケッチオーデションを広げていただき、更なる成長を遂げていくことができれば、富山の経済に大きなプラスになると思う」とメッセージが送られた。その後も活発に意見を交換する様子が伺え、スケッチオーデションのコンセプトである「仲間と学びあい支えあう」が実現した日となった。



牧田代表幹事





様々な業種の現場から

～ 第12回ごきげんよう職場訪問（東京）～

3月15日(水)～16日(木)、企業経営委員会（伊勢徹委員長）は第12回ごきげんよう職場訪問（県外視察）を開催し、22名の委員が参加した。

【1日目】

1日目は、東京証券取引所、(株)レノバ、NHK放送センターを視察した。

<東京証券取引所（東証アローズ見学ツアー）>

東証アローズは、かつては「株券売買立会場」として、大勢の証券マンが集まり取引をしていた場所。コンピュータによるシステム売買が商いの中心となったため1999年4月30日に立会場が閉場され、2000年5月に東京証券取引所の情報提供スペース「東証アローズ」としてリオープンしたもの。



一行は、マーケット監視業務が行われているマーケットセンターや、国内外の報道機関がスタジオを構えるメディアセンター、東京証券取引所の歴史資料の展示などをスタッフの説明を受けながら見学した。

当日は、折よく「上場セレモニー」が行われており、新規上場会社が上場通知書の贈呈を受け、上場の鐘を鳴らすシーンに立ち会うことができた。

<(株)レノバ>

日本とアジアで太陽光・風力・バイオマス・地熱・水力などの複数の再生可能エネルギーを開発・運営する(株)レノバを訪問し、取締役CFO財務・経営企画本部長の山口氏（富山出身）、

G X本部副本部長の長浜谷氏、G X本部戦略企画室長の毛涯氏から、同社の事業概要と今後の展望について説明を受けた。



同社は2000年の創業から一貫して環境ビジネスに取り組み、2016年以降は再生可能エネルギー事業に特化、2022年からはG X事業に本格的に着手している。「再エネは地域の資源を経済に変え、地域の活性化につながる重要なツール」と捉え、エネルギーシステムの構築を通して、人口減少や高齢化、雇用の創出といった社会的課題の解決を図ることを経営理念として掲げて事業を展開しているとのこと。



<NHK放送センター>

葛城富山放送局長の案内の下、一行はまず、数多くのモニターが並び、放送中にディレクターらが現場への指示を出す副調整室、バーチャルとリアルが合体したスタジオセットなど、普段目に見ることができない番組制作の裏側を見学した。



続いて、2025年に運用開始となる新しい放送センターの建設現場を見学した。移転新築する案もあったが、地盤の強固さや都内主要箇所へのアクセスの良さなどから現在地での建替えとなったとのこと。

見学の最後には、建物内に5つもあるという社員食堂の1つを訪れ、コーヒーを味わった。

NHK放送センターでは職員約6,000人、スタッフを含めると約1万人が働くという。機材が並ぶ狭い室内で慌ただしく働く職員の姿が印象的であった。

【2日目】

2日目は、amazon 目黒オフィス、日立ビルソリューションラボ、国会議事堂を見学した。

< amazon 目黒オフィス >

一行は、目黒に3つあるamazonのオフィスのうち、約4年前に開設した一番新しいオフィスを訪れた。

まずは、アマゾンウェブサービス(以下、AWS)ジャパンの鎌田氏と渡貫氏の案内の下、コワーキングスペースであるAWS Loftや、200人規模のセミナーが開



緑あふれるオフィス空間



社員食堂でランチ



催できるセミナースペース、顧客との商談・打合せ用のスペースを見学した(執務室フロアは社員以外立入禁止とのことで写真を用いて説明いただいた)。オフィス内は至るところに緑が茂り、明るく開放感のある空間にデザインされていた。

その後、amazon と AWS に関する紹介として、Amazon Culture、イノベーションを支える仕組み、クラウドによる地方エンジニアの活性化、AWS の採用・人事評価の考え方について説明を受けた。

最後に、amazon 社員食堂にて、AWS の皆さんとざっくばらんに意見交換しながら昼食を取った。

< 日立ビルソリューションラボ >

日立ビルソリューションラボは、(株)日立ビルシステムの先進の技術やサービスを体感できるショールーム。



一行は、エレベーターや顔認証セキュリティシステムなど最新の製品・サービスを体感したほか、24時間365日のサポート体制を整える管制センターの実際の業務風景を見学した。

続いて、ラボに併設されている人財開発センターにおいて、エレベーター・エスカレーターなどの昇降機、空調用の冷凍機などの実機を用いて、技術者の実習・育成を行う現場を見学した。



(株)日立ビルシステムは、全国の300を超える拠点から保守技術者を現場に派遣している。顧客の安心・安全を守るため、日々優秀な技術者の育成に取り組んでいるとのこと。

< 国会議事堂 >

最後に、国会議事堂(衆議院)を訪れた。衆議院は現在、コロナ対策のため議員の紹介がある場合のみ見学を受け入れており、今回は、田畑裕明衆議院議員の紹介により見学が実現した。

一行は、赤じゅうたんが敷かれた議事堂内の廊下を歩き、中央広間(残念ながら工事中であった)、天皇陛下の御休所、皇族室、衆議院議場などを見学した。



田畑議員と

今回の視察では、会員各位のご協力のおかげで、様々な業種の現場を訪問することができ、大変充実した内容となった。



車いすバスケットボール体験交流会

— 第10回文化スポーツ委員会・第11回教育問題委員会（合同開催） —

第10回文化スポーツ委員会（島田好美委員長）・第11回教育問題委員会（高瀬幸忠委員長）の合同委員会を3月28日（火）、富山大学で開催。車いすバスケットボール東京パラリンピック銀メダリストの宮島徹也選手を招き、講演会と車いすバスケットボール体験交流会を実施し、委員20名が参加した。

講演会では、宮島選手はまず自身の半生を振り返った。中学2年の時、バスケットボール県選抜チーム入りを決める選考会中に靭帯断裂の大けがを負い、



宮島 徹也 氏

手術を受けるも医療事故により左足を切断。障害者になった現実と将来の不安から人生に絶望していたが、障害者になった自分に変わらずに接してくれる友人や家族の存在から「このままではだめだ、何かしなきゃ」と思い、車いすバスケットボールを始めた。周囲の人々の支えのお蔭で「車いすバスケットボールで日本代表になる」という夢を見つけることができ、今の自分があると語った。

次に、「一心」をスローガンに掲げ、年齢も境遇も違う選手たちがチームとして1つになり銀メダルを獲得した東京パラリンピックの舞台裏を語った。

最後に「障害も見方によっては強みに変えられる。僕は、障害はあるがパラア



スリート。アスリートとして見てもらえれば、皆さんと一緒にスポーツを通じて障害への理解を深めたり、富山県を盛り上げていく1つのきっかけになる」と講演を締めくくった。

体験交流会では、宮島選手から前進、バック、右回り・左回りといった車いすの操作やボールを持った動きの指導を受けた後、実際に試合を行った。



参加者たちは、車いすに乗ってのドリブル、パス、シュートの難しさに苦戦しながらも、白熱した試合を展開した。シュートが決まると大きな歓声を上げるなど、参加者は童心に帰って熱中した。パラスポーツの魅力を十分に体感できる貴重な機会となった。





大転換期を生き抜くには

— 課外授業講師派遣 —

第17回 富山県立高岡高等学校

3月3日(金)、福崎秀樹氏(株)フクール代表取締役)が富山県立高岡高等学校にて1年生280名を前に「大転換期を生き抜く力を考える」をテーマに課外授業を行った。

福崎代表は、はじめに、「おいしいものを食べること」と「おいしくものを食べること」の違い＝自分の心で決めることの大切さを説明したうえで、「今の時代はSNSからの情報など外からの多くの刺激に浴びせられているが、外からの刺激に反応し続けたら本当の自分を生きにくくなる、本当の自分を生きなければならない」と説いた。

次に、私たちは今、①VUCAの波、②自動化の波、③人生100年時代の波の3つの大波に襲われており、大転換期にあると述べた。急速な少子高齢化、新型コロナウイルスの流行など、予測できないことが日々起こり、確実なものがないことだけが確実なVUCAの時代。そのような中、テクノロジーは指数関数的に進化し、2030年には今ある仕事の49%はコンピュー

タで自動化されると言われている。また、今までは、いい大学に入りいい会社に就職するのが人生の正解だったが、人生100年時代になると、この考え方は通用せず、正解が誰にもわからない、と説明した。



そして、「3つの大波に襲われていても、未来は決して暗くはない。歴史上にも大転換期は何度もあったが、先人たちは、志、レジリエンス、即興力で乗り越えてきた。大転換期を生きするには、人間だけが持っている能力を高める必要がある、そのためには、人と関わったり、本を読んだり、旅をしたり、挑戦したりして、人間らしく生きる、本当の自分を生きることが大切だ」と述べた。

最後に、「大転換期を生きるのは皆さんだけではない。私も同じ。共にこの時代を一生懸命生きよう！」と熱く語り講義を締めくくった。

「目標を持って全力で働く」

吉岡隆一郎氏、富山県市町村新任職員研修で講演

4月21日(金)、吉岡隆一郎氏(株)文苑堂書店会長)が富山市を除く県内14市町村の新任職員約160名(オンライン聴講含む)を対象に「自分で考える」と題し、講演を行った。

吉岡会長ははじめに、働く上での心構えとして、「一日の一番大切な時間を仕事に割くのと、適当に仕事をしていては人生が無駄になる。どんな仕事に対しても真剣に全力で取り組むことで仕事面白くなり、充実した有意義な時間に行うことができる。」と述べた。

続いて、3人のレンガ職人の寓話を紹介しながら、目標を持って仕事をする大切さを説いたうえで、「今、厳しい上司がおらず居心地が良い“ゆるい職場”が問題になっている。“楽あれば苦あり”という言葉があるが、“苦がなければ楽はない”とも言える。結果を出すには負荷が必要。そのためには地域のために何が自分自身で考えて目標を設定し、自分自身に負荷をかける。皆さんの仕事ぶりによって地域の将来が変わり、地域の将来が変わると日本の将来も変わる。皆さんがどういう目標を立てるかが非常に大切だ」と語った。

次に、新任職員へのアドバイスとして、①本

を読む：本には生き方や人間関係のコツなど素晴らしい知恵が詰まっている、②仕事も余暇も全力で：ワークライフバランスと言われるが、バランスを取るのではなく、両方に全力で取り組み充実した人生を送る、③納税者の厳しい目を認識する：経営が厳しい中から税金を納める企業がたくさんある。恐れる必要はないが厳しい目で見られていることを認識してほしい、④幅広い人間関係を構築する：同じ環境の人間で集まると考え方が似ており居心地が良いが、時にそれが成長を阻害する場面がある。役所だけの人間関係で終わらせず、違った環境・考え方の人と交わる必要がある、と述べた。



最後に、「仕事に全力で取り組む能力を身に付けてほしい。そうすると仕事は面白くなる。全力で取り組むのは苦しいが、それがないと成長できない。過去の人たちが成長してきたから今の私たちがいる。ぜひいい仕事をして、地域が良くなるよう頑張ってもらいたい」とエールを送り講演を締めくくった。



働くこと

開 章 夫

(昭和建设株式会社 代表取締役)

令和3年と令和4年に富山経済同友会さんから御依頼を受け、高岡市内の中学校で授業をやらせていただく機会がありました。「14歳の挑戦」という中学生の就業体験が、新型コロナウイルスの影響でできなくなったため、せめて企業経営者に働くことについて授業をしてもらいたいということでした。自分が中学生の時に働くことを意識していたかと思えば、将来に対して強く意識していたわけでもなく、いつかは働くのだろうといった程度にぼんやりと考えていたように思います。自分が建設業で働き始めてもう少しで30年近く経ちますが、中学2年生にわかりやすく「働くこと」を説明するとは、なんと難しいことかと感じました。

自分が建設業に入った頃、バブルは弾けていましたが、阪神淡路大震災の復興などもあり、まだまだ公共工事も多くありました。パソコンを業務で使うという環境が、まだ始まったばかりでしたので、途中でデータが飛んでしまうことや、手書きで書類を作ることも多くありました。今では考えられない状況ですが、当時はこんなものだと思っていました。

今では事務書類はもちろんのこと、労務管理や会計処理、工事現場の管理などもすっかりパソコンが業務になくはならない物となりました。外仕事の建設業にも数年前からDXの波が押し寄せています。ドローンを飛ばして写真測量を行い、3Dの図面にデータ化し、そのデータを建設機械に転送することで、重機の操作経験の浅いオペレーターでも正確に作業を行うことが可能になってきました。またGPSを使うことで、今まで測量をしながら作業を行う位置を出していたものが、機械が判断するようにも

なっています。

若年労働者の減少による深刻な人手不足の中で、各企業が採用のために賃金を上げ、休日を増やし、福利厚生を充実させ、働きやすくて満足感がある企業へ変化させています。我が社も日々努力をしていますが、中々思うように進めることができているのが現実です。

昨年11月にアメリカのOpenAI社が公開した「ChatGPT」というAIチャットサービスはユーザーが入力した質問に対して、まるで人間が答えているような自然な対話形式で文章の作成や添削、校正を行い、小説を書いたり、プログラミングや表計算ソフトの関数を記述したりもできるそうです。まだ正確性には問題はあるものの、将来的には企業内の事務部門にとって代わる可能性を秘めています。そしてこのような技術は、これから働く人たちが将来を見据え、どのような職業を選択し、どのような働き方をするかに大きな影響を与えたいと思います。インターネットの普及で、自分が興味あることは手軽に調べることができるようになりました。しかし、興味を持っていない情報は入ってくるのが少なくなったように思います。AIの進歩から今後の業種という概念を大きく変える可能性が出てきました。しかしながら自分で経験し、学び、他の人たちとコミュニケーションを取り、それをどのように応用するかを考える力を養う能力が失われてしまうのではないかと心配もあります。「働く」という概念が大きく変化していく中で、働く時間や内容が変わっても、「働く」ことで誰かを喜ばせる機会が与えられていると思いたいものです。

(次号はハリタ金属(株)代表取締役の張田 真 様です。)

活動報告

3月1日～4月30日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
3月6日(月) 15:40～18:30 富山電気ビルディング	3月幹事会・会員定例会（人財活躍委員会主管） 講師：(株)プロノバ 代表取締役社長 (株)ユーグレナ 取締役 CHRO（非常勤） 岡島 悦子 氏 演題：「多様性を活かし、組織成果を最大化するマネジメント手法とは」	154名
4月11日(火) 16:00～17:00 富山電気ビルディング	4月幹事会	65名
4月26日(水) 16:30～20:10 ANAクラウンプラザ ホテル富山	2023年度定時総会・懇親会	約210名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
3月15日(水) ～16日(木) 東京都	企業経営委員会	第12回ごきげんよう職場訪問 (県外視察) 東京証券取引所、(株)レノバ、NHK、 amazon、日立ビルソリューション ラボ、国会議事堂	22名
3月18日(土) 13:00～18:00 富山大学黒田講堂	人財活躍委員会	スケッチオーデション（予選大会）	12名
3月19日(日) 14:00～19:20 オークスカナルパーク ホテル富山	人財活躍委員会	スケッチオーデション（決勝大会）	22名
3月22日(水) 17:00～19:40 オークスカナルパーク ホテル富山	第10回教育問題委員会	第12次委員会の活動総括	20名
3月27日(月) 16:30～20:00 富山電気ビルディング	第19回地域創生委員会	・講演会「富山県成長戦略における ウェルビーイング指標策定 の意義」 講師：富山県知事政策局長 三牧 純一郎 氏 ・講演会「サステイナブル・スマート シティ・パートナーシップ・ プログラム」 講師：日本電信電話(株)新ビジネス推 進室 スマートシティ担当部長 松村 若菜 氏 ・今期活動報告	72名
3月28日(火) 14:00～19:15 富山大学 五福キャンパス	第10回文化スポーツ委 員会 第11回教育問題委員会	車いすバスケットボールに関する 講演会と体験会 講師：宮島 徹也 選手	20名
4月3日(月) 17:00～20:30 ごんべい舎	第4回委員長連絡会議	委員会活動総括	10名

○課外授業講師派遣

開催日時	学 校	対 象	講師・演題
3月3日(金)	富山県立高岡高等学校	1学年280名	福崎 秀樹 氏 「大転換期を生き抜く力を考える」

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
3月2日(木)	鹿児島経済同友会との交流会	松月	6名
4月13日(木) ～14日(金)	第35回全国経済同友会セミナー (長崎経済同友会主管)	長崎県	21名

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
3月13日(月)	カターレ富山「キックオフパーティ2023」	ホテルグラン テラス富山	牧田代表幹事
3月16日(木)	G7教育大臣会合富山県委員会 第2回総会	富山県民会館	麦野代表幹事
3月16日(木)	高岡信用金庫 創立100周年記念式典	ホテルニュー オータニ高岡	麦野代表幹事
3月17日(金)	令和4年度富山県SDGs推進連絡協議会	富山県民会館	有藤事務局長
3月17日(金)	富山県美術館開館5周年記念 「生誕120周年棟方志功展」開会式	富山県美術館	麦野代表幹事
4月21日(金)	富山県武道館整備基本計画の見直し検討 委員会	富山県防災危機 管理センター	麦野代表幹事
4月21日(金)	富山県市町村新任職員研修(講師)	富山県市町村会館	吉岡 隆一郎 氏
4月25日(火)	就職期の女性に選ばれる富山県キックオフ会議	富山県庁	牧田代表幹事
4月27日(木)	令和5年度富山県水と緑の森づくり会議	富山県民会館	稲田常任幹事

会員の入退会

(3月・4月幹事会)

1. 最近思うこと

(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)

2. 生活信条(座右の銘等)

3. 趣味

入会



木村 雅彦

(株)北陸日立

代表取締役

(紹介者：山村隆彦氏)

1. アフターコロナの社会経済活動へ変化していく中、社会課題である脱炭素、グリーン等に対する取り組みを積極的に強化し微力ながら富山経済発展に貢献していきたい。
2. 為せば成る、為さねば成らぬ何事も。
蒔かぬ種は生えぬ。
3. ドライブ、映画鑑賞、ゴルフ



高木 奈津美

ファミリーユ(株)

代表取締役

(紹介者：牧田和樹氏)
桶屋泰三氏)

1. 社会環境が大きく変化する中で、子育て女性を取り巻く環境も変化してきました。育児・働き方・産後うつなどの様々な課題を解決し、公益性と収益性の両立を目指しています。
2. 明るく、楽しく、笑顔でいる
3. 温泉めぐり



林 泰三

(株)堀江商会

代表取締役

(紹介者：浅野雅史氏)

1. まだ道半ばであり、弊社はまだまだ伸び盛りであると思います。どの様に伸ばすか日々検討中であり、社員の皆様と更に地域に根付いた企業を目指します。何卒よろしくお願い致します。
2. 笑う門には福来る
3. 映画鑑賞、ゴルフ(下手くそですが…)



松下 光信

(株)松下工業

代表取締役

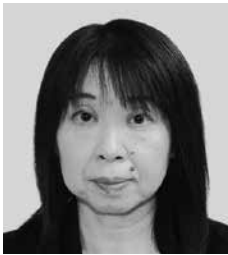
(紹介者：田村元宏氏)

1. 配管業という、ライフラインを裏で支える仕事をしております。世の中を支える裏方が正しく評価され、その仕事に就く者が誇りを持ち働けるようになることを意識しています。
2. 全力で働き、全力で遊ぶ。
頑張っている人の頑張りを、ちゃんと見る。
3. 釣り、カメラ、クルマ



も ずみ まさこ
茂 住 昌 子
(株) Snow Fox Japan
代表取締役
(紹介者：田村元宏氏)

1. コロナ禍で世界の小売り形態が変化。しかし新規に輸入・販売業に参入した弊社にはチャンス。AIの目覚ましい発達が少数でも勝てるEC市場を作りあげ、大きく飛躍する環境が一気に整ったと感じます。
2. The only impossible journey is the one you never begin. 当然、無計画ではなくリサーチが必須。無限大の想像力があれば不可能はない。
3. 子供たちと過ごす有意義な時間



い ぶか あ き
井 深 亜 希
三井住友海上火災保険(株)
富山支店長
(前：五十川規洋氏)

1. 多様な社会的課題（気候変動、感染症、サイバー、少子高齢化等）によるリスクに対して保険本来の機能に加え「補償前後の価値」を創造し提供していく。
2. 「人には優しく、自分には厳しく」年々、自分に優しくなっています。
3. 旅行、家庭菜園、飼い猫2匹と遊ぶこと



う え がき まさ ひろ
上 垣 雅 裕
丸紅(株)
北陸支店長
(前：大西英一氏)

1. 同友会の皆様との交流を深め、富山を深く理解し、当地の魅力を強力に発信し、富山の発展のために微力ながら貢献していく所存です。宜しく願い申し上げます。
2. 上善如水
3. ゴルフ、ドライブ、クラシック音楽鑑賞

交代



い い だ そ うちろう
飯 田 壮 一郎
野村證券(株)
富山支店長
(前：依藤慶太氏)

1. 物価の上昇を実感させられることが増えてきました。「証券報国」私どもの創業の精神で富山県の持続的な経済発展に貢献したいと、強く感じております。
2. 笑う門には福来る
3. 登山、サイクリング、ゴルフ



い ま い みつ お
今 井 光 雄
富山空港ターミナルビル(株)
理事
(前：下川雅一氏)

1. 富山空港では4月から国際線が再開し、明るい兆しが出てきました。開港60周年の節目でもあり、賑わいを取り戻し上昇する一年となるよう、楽しく元気よく業務に励みます。
2. 熱のあるところに人は集まる。チェンジはチャンス。慎重自ら持し敢為事に当たる。
3. 山歩き、カターレ富山、木曾義仲、巴御前



お お く ぼ たかし
大 久 保 尚
富士通 Japan (株)
東海北陸支社長
(前：伴 由美子氏)

1. コロナ禍を経験し、改めて日本国民の素晴らしさを痛感した一方でこれから取り組む社会課題なども再認識し、それらの課題を少しでも解決できるようにデジタルテクノロジーで社会貢献していきたい。
2. 一期一会。入社以来約10回の転居を経験し、新たな人との出会いの大切さを痛感
3. ランニング（フルマラソン）、富山マラソンエントリー予定



かどの その かつ ひさ
門之園 勝 久
SMBC 日興証券(株)
富山支店長
(前：芝 聡太郎氏)

1. 4月より富山支店長として参りましたが、富山の雄大な自然と人々の温かさに深く感銘を受けました。社業である証券業を通じ地域に貢献できるよう努めて参る所存です。
2. 実るほど頭を垂れる稲穂かな
笑う門には福来たる
3. 船釣り、ゴルフ



まし よういちろう
岸 洋一郎
大塚製薬(株)
富山出張所 所長
(前：山本悠一朗氏)

1. 先行きが不透明な世の中です。新しいやり方で、新しい富山での仕事を行えるよう、楽しんで活動できればと思っております。
2. 人事を尽くして天命を待つ
3. ゴルフ、釣り、野球、読書



くら た ひろ のり
倉 田 洋 紀
(株)三井住友銀行
富山支店長
(前：安川 智氏)

1. 大学で上京して以来、約30年を経ての地方生活を富山の地でお世話になります。富山の地への貢献を通じて、銀行員として少しでも日本経済再生の一翼を担うのが目標です。
2. 素直な心で自身に向き合う事、周囲への感謝とリスペクトの気持ちを持って接する事
3. 野球観戦を中心としたスポーツ観戦全般



こし とう しん べい
後 藤 新 平
JFE エンジニアリング(株)
北陸支店長
(前：北村彰人氏)

1. 企業理念の【^{もと}くらしの礎を「創る」「担う」「つなぐ」】を先頭に立ってチャレンジし、地域貢献を実現したい
2. 出会い・真・健康
3. カープラモデル制作、F1観戦



だい どう しょういちろう
大 道 正 一朗
日本電気(株)
富山支店長
(前：加地章浩氏)

1. 我々の最大の使命は「地域課題の解決」だと考えています。富山のみなさまの笑顔が見られるように精一杯頑張ってます。
2. 人生は一度きり。やらずに悔いるより、まずはやってみる。
3. 読書、散歩、勤務地の文化・歴史の探求



なが た たかし
永 田 崇
大和リース(株)
富山支店長
(前：粕谷昌浩氏)

1. 「人」と「地域」を育てる事を念頭に事業活動をおこない、地域社会から信頼して頂けるよう努めます。また全ての活動において、環境に配慮し持続可能な社会実現を目指します。
2. 積極精神で何事も取り組んで参ります。
3. トレイルランニング、ゴルフ、ジョニング



なかむら しんいち
中村 信一
(株)IHI
北陸支社長
(前：北澤真一氏)

1. 「自然と技術が調和する社会」を創るとい
う弊社グループのありたい姿を実現するた
めに自然豊かな富山の地で微力ながらどう
いった貢献ができるかを考え行動してい
きたい。
2. 常に謙虚に自身を見つめ世のため人のため
に尽くせる人になりたい。
3. スポーツ観戦（野球中心にスポーツ全般）



まかど あきら
真門 聡明
(株)インテック
取締役副社長執行役員
(前：山本克也氏)

1. 4月より副社長を拝命し身の引き締まる思
いです。変えるべきもの変えてはいけな
いものを見極めつつ、微力ながらすべての関
係者様への貢献に努めたいと存じます。
2. 「勤を以って拙を補う」こうありたいとい
う私の願いです。
3. 書道、美術鑑賞



みよし はやと
三吉 勇人
協和ファーマケミカル(株)
取締役社長
(前：櫻井 隆氏)

1. 医薬品原薬メーカーとして人々の健康と豊
かな生活に貢献すると同時に、社員の笑顔
や幸せも大切にして、ワークライフバラ
ンスの取れた元気な会社にしていきたい。
2. 常に明るく前向きに取り組み、本音で話す。
3. 一人カラオケ、ギターを少々



のだ つよし
野田 強
第一生命保険(株)
富山支社長
(前：箭内明仁氏)

1. 少子高齢化による社会保障制度のスペック
ダウンを、一人でも多くの県民の皆様にお
伝えし、自助努力と共助社会の継続必要性
について、我社にできる事を取り組んで行
きたい。
2. 一隅を照らす
3. ゴルフ、旅行、酒



みはら かつひさ
三原 克久
三菱商事(株)
北陸支店長
(前：尾城敬郎氏)

1. エネルギー分野（EX）及びデジタル分野
（DX）の技術革新やビジネスモデルの変
化を取り込み、北陸地域経済の更なる活性
化に繋がるような新たなビジネス創造に邁
進したいと思います。
2. 光明磊落
3. ゴルフ



やまぐち たかゆき
山口 貴之
YKK AP(株)
北陸支社長
(前：羽馬隆人氏)

1. 富山県は弊社との関わりの深い地域です。
明るく・逞しい組織構築を目指しています。
又、皆様の住環境・職場環境を窓を通じて
快適にお過ごし頂けるよう努めてまいりま
す。
2. 凡事徹底（当たり前のことを極める）
3. 読書、旅行



やま ぎき よし と
山 崎 良 人

(株)JTB

富山支店長

(前：杉浦孝典氏)

1. 富山を知り、富山を愛し、ツーリズムを通じて地域社会に貢献したいと考えています。まだまだ若輩者でございます。お作法等も含め、ご指導の程宜しく申し上げます。
2. 受容とリスペクトの精神を大切にし、謙虚さを失わない。
3. スポーツ観戦（特に学生アメフト）

退 会

黒 谷 暁 黒谷(株) 代表取締役
 笹 原 正 徳 (学)和楽学園 学園本部長
 清 水 恵 大 北陸興和産業(株)
 取締役社長
 西 島 ことぎ (株)富山プレート
 代表取締役
 森 田 忠 雄 (株)富山県義肢製作所
 取締役会長

(令和5年4月11日現在 会員数428名)

慶事のお知らせ

おめでとうございます

令和5年春の叙勲において、当会会員が晴れの栄誉を受けられました。心からお喜び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

旭日小綬章



島 竜彦 氏

(株)SHIMARS
取締役会長

旭日双光章



大津賀 保信 氏

ダイト(株)
取締役社長



昆布ロードでのつながりを再確認

～ 鹿児島経済同友会と交流会を開催～

3月2日(木)、鹿児島経済同友会の津曲貞利代表幹事、産業活性化委員会の委員等13人が富山市のスマートシティの取り組みを視察するため来県し、交流会を開催した。当会から麦野英順・牧田和樹代表幹事はじめ8名が参加した。

富山と鹿児島は江戸・明治時代に昆布ロードで経済的なつながりがあったことから、北前船の寄港地「東岩瀬」で交流会を開催。株式会社榊田酒造店の榊田隆一郎社長に「東岩瀬」

の街並みをガイドしていただいた。その後、当地老舗料亭「松月」に移動。松月では、お互いの同友会の取り



東岩瀬の街並み散策

組みについて紹介。鹿児島同友会は森正則産業活性化委員長、当会は高林幸裕企画委員長が発表を行った。その後の懇親会には新田八朗富山県知事にもご参加いただき、和気あいあいとした交流会となった。



組



富山の魅力を幅広く発信

～ 地域創生委員会、観光ガイドブック・ウェブサイト制作～

地域創生委員会（山本覚委員長）は、昨年10月に実施したフィールドワークを対象に、一昨年・昨年に引き続き、観光ガイドブック及びウェブサイト「富山の経済人が本気で考えて ついに 実際泊まってみた！とやま1泊2日観光コース」を制作した。

フィールドワークは富山の魅力再発見と幅広い発信を目的に一昨年度より実施しているもので、今回も委員より公募した27プランの中から6行程を選定し、委員29名が富山県内を1泊2日かけて巡った。

制作したガイドブックは、県内主要駅や空港の案内所、ホテルなどに設置されている。ウェブサイトや過年度版（半日・1日観光コース）と併せて、県外からの来訪者はもとより県内在住の方にも、富山の魅力を改めて知ってもらうツールとしての活用が期待される。



事務局からのお知らせ

事務局体制に変更がございましたので、担当委員会とあわせてお知らせいたします。

<富山経済同友会事務局メンバー>

事務局長(新任)	上田 順子 うえだ じゅんこ	(担当委員会：企画、交流)
事務局長(～4/26)	有藤 直樹 ありとう なおき	(株北陸銀行) (担当委員会：人財活躍、アントレプレナーシップ小)
事務局次長(新任)	若島 啓子 わかしま けいこ	(北陸電力株) (担当委員会：地域創生、ESG経営小、ウェルビーイング小)
主席経済交流員	寺西 恵理 てらにし えり	(富山県) (担当委員会：企業経営、教育問題)
主席経済交流員(新任)	植野 雅美 うえの まさみ	(富山市) (担当委員会：文化スポーツ、アスリート支援小)
事務局員	福田 正美 ふくだ まさみ	

なお、梅野裕真氏(前 事務局次長)は退任、吉川賢一氏(前 主席経済交流員)は富山市活力都市創造部交通政策課へ帰任致しました。今後ともよろしく願い申し上げます。

今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
6月4日(日)	あけぼの会会員	第84回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
6月16日(金)	正副代表幹事 交流委員会	第4回全国立山大使の会 (県外在住の当会会員 OB・OG 会)	東京會館
7月24日(月)	幹事以上	7月幹事会	ホテル グランテラス富山
7月24日(月)	全会員	7月会員定例会 講師：福井県立大学 准教授 高野 翔 氏	ホテル グランテラス富山
7月27日(木)～ 8月3日(木)	全会員	第41回海外経済視察	オランダ・ アイスランド
8月23日(水)	令和5年1月以降入 会新会員 正副代表幹事、常任 幹事、各委員会委員長、 交流委員会委員	新会員歓迎オリエンテーション・ 懇親会	オークスカナル パークホテル富山
8月29日(火)～ 9月6日(水)	教育問題委員会	第10回海外教育事情視察	ドイツ・ デンマーク
9月9日(土)	あけぼの会会員	第85回あけぼの会	呉羽カントリー クラブ
10月13日(金)	幹事以上	10月幹事会	ホテルニュー オータニ高岡
10月13日(金)	全会員	10月会員定例会・懇親会 講師：Z ホールディングス (株)Zアカデミア学長 武蔵野大学アントレプレナー シップ学部長 伊藤 羊一 氏	ホテルニュー オータニ高岡

〔表紙写真〕

第12回ごきげんよう職場訪問

3月15日～16日ごきげんよう職場訪問(企業経営委員会)東京視察を実施。

写真は東京証券取引所にて撮影した1枚。東京証券取引所では折よく、新規上場を記念するセレモニーに立ち会うことができた。

発 行 所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階
電 話 (076) 444-0660
F A X (076) 444-0661
e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp
https://www.doyukai.org/

わが青春の1枚



〔出典〕アサヒグラフ通巻2425号
(昭和45年6月19日発行)



ダンモの時代だったのだ

株式会社富山市民プラザ 取締役会長

森 雅志

自宅に「アサヒグラフ」の昭和45年6月19日発行のものを持っている。ある時にバックナンバーを探して取り寄せたものである。いったいどういう記事に関心があったのか。恥を忍んで紹介してみたいと思う。

この号は「特集・日本のジャズ」とされたもので、表紙には富山市内の喫茶店で演奏する、あの菊地雅章（キクチマサブミ）の写真が使われている。実はこの特集記事中に使われている1枚の写真の片隅に若き日の僕が写っているのである。若き日のと書いたが、この時僕は高校三年生であった。当時から既にこのアサヒグラフの特集記事の存在は知っていたが、ある日突然このことを思い出し、何とかもう一度見てみたいと思い至り、バックナンバーを探したという次第。

高校生の頃の僕はジャズ喫茶に入り浸っている典型的な不良生徒であった。当時人気の高かったあの菊地の演奏を生で鑑賞できたのだから、きっと舞い上がっていたに違いない。まさかア

サヒグラフの特集記事の中の写真に自分が写り込むなどは想定していない僕は、まったく無防備な姿でいかにも常連客然としてカウンターに腰かけていたのであった。記事中の別の写真を見るとこのセッションの開催時間が午後7:00から深夜の2:00までとなっている。おそらく終演前に帰宅したのだろうとは思ものの記憶は曖昧である。

同級生がこの雑誌を見つけてきて、「これが高校の知るところとなれば、お前は間違いなく退学になる。」と予言してくれた。結果として無事に卒業できているのだから誰も気づかなかったということだろうなあ。モダンジャズをダンモと言っていた時代の懐かしい記憶である。生意気盛りのやんちゃ坊主の苦い記憶だとも言える。当時街中には「ニューポート」と「ケント」というジャズ喫茶があった。当然ながら既に閉店している。それでも今も忘れがたい思い出の空間だったのである。今、このバックナンバー誌はあの頃の記憶を風化させない宝物となっている。